

# 大分県内遺跡発掘調査概報 9

2006

大分県教育庁埋蔵文化財センター

## 例 言

- 1 本書は大分県教育委員会が平成17年度国庫補助金を得て実施した大分県内遺跡発掘調査事業の調査概要報告書である。
- 2 調査にあたって県農政部・県林業水産部・県各地方振興局・県内農業基盤整備事業担当課・市町村教育委員会、大分森林管理署、甲斐弘美氏、藤島純高氏の御協力をいただいた。
- 3 本書の執筆は綿貫俊一・小柳和宏・高橋信武が、編集は高橋が担当した。

## 目 次

はじめに .....	1
I 農業・林業等関係遺跡分布調査 .....	1
II 西南戦争戦跡分布調査	
1 分布調査	
1. 白杵市姫岳 .....	5
2. 佐伯市宇目大字重岡・大原周辺 .....	7
3. 竹田市法師山 .....	16
2 分布・測量調査 佐伯市宇目大字大平三本国有林1,084 .....	20
まとめ .....	30
報告書抄録	

# はじめに

今年度は下記の体制で農業・林業関連等の開発事業に対する事前の分布調査を継続するとともに、昨年度に引き続き西南戦争戦跡の調査を実施した。

## 調査組織

### 調査主体 大分県教育委員会

大分県教育庁文化課	課長	今永一成
文化財班	課長補佐	高橋徹
	主幹	後藤一重
埋蔵文化財センター	所長	渋谷忠章
	次長兼総務課長	益永孝則
調査第一課	課長	栗田勝弘
大型事業担当	主幹	高橋信武・小林昭彦・甲斐寿義
	副主幹	小柳和宏・綿貫俊一
	主査	矢部勝徳
	嘱託	河原英明・権藤聡子・下田智隆
調査第二課		
資料管管理担当	嘱託	羽田野富弘・畦津宏幸
受託事業担当	嘱託	加藤美成子

### 調査協力者

佐伯市宇目	文化財調査員	甲斐弘美
竹田市市史執筆者		藤島純高
佐伯市教育委員会社会教育課		谷川俊介
		渡辺広樹
臼杵市教育委員会社会教育課		三嶋有子
		岡村一幸

## I 農業・林業等関係遺跡分布調査

平成17年度に大分県教育庁埋蔵文化財センターが市町村教委の協力を得て実施した県内の農林業関係事業（平成18年度工事予定地区）の分布調査は別表1のとおりである。分布調査は平成17年9月28日から10月4日までの期間に当初予定分の83箇所に対して実施し、平成18年1月30日から2月2日までの期間はその後の追加発生分の5箇所について追加調査した。最終的な分布調査結果の判定内訳は、A. 周知遺跡内で確認調査の必要な個所が7箇所、B. 試掘調査の必要な個所は16箇所、工事予定地内にAランクとBランク両方の地点を有する箇所が1箇所、工事予定地内の一部がBランクの箇所が1箇所、E. 再度の分布調査の必要な個所が1箇所であり、その他はD. 事業実施に問題ない箇所である。

また、今年度工事地区の試掘・確認調査を4ヶ所で行った。内訳は、国関係等の事業として豊後竹田市荻町のファームポンド設置（九州農政局）に伴う確認調査・日田特別地域気象観測所整備工事に伴う確認調査、県教委関係の三重総合高等学校新築工事予定地に対する試掘調査・日田三隈高等学校多目的ホール建設に伴う確認調査である。

その他、県教委所管の緒方教職員住宅解体工事に伴う立会調査を行った（綿貫俊一）。

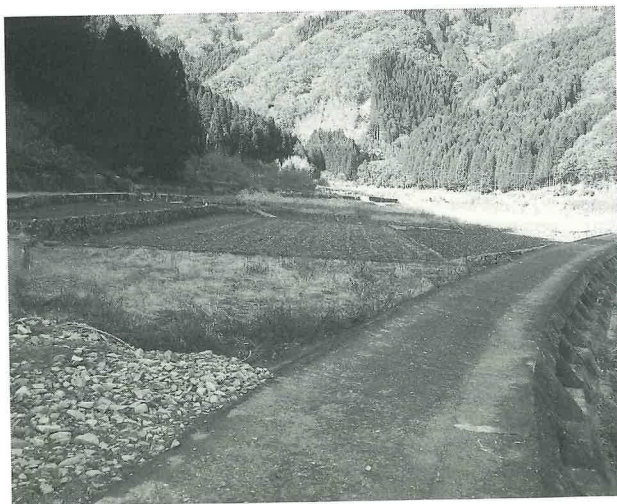
表1 平成17年9, 10月(1~83)、平成18年1, 2月(84~88)に実施した県内遺跡分布調査結果 (※前年度調査)

No.	事業名	地区名	工事場所	実施面積ha 実施延長m	振興局名・課名 担当者名	工事開始 予定時期	関係 市町村名	
1	農免農道整備事業	嶺崎3期	豊後高田市田染真木	900m	西高地方振興局 耕地課 小崎 智	H18.9.30~	豊後高田市	B
2	森林居住環境整備事業	アクセス林道 天念寺屋山線	豊後高田市大字 長岩屋	700m	西高地方振興局 林業水産課 飯田和彦	H17.6.10~	豊後高田市	D
3	森林環境保全整備事業	森林管理道 落水線	豊後高田市大字嶺崎	1,200m	西高地方振興局 林業水産課 宮本亮平	H17.6.10~	豊後高田市	D
4	中山間地域総合整備事業	安岐地区(諸田工区)	安岐町大字明治	ほ場整備 8.0ha	東国東地方振興局 耕地課 横田政孝	H18.6.1~	安岐町	B
5	中山間地域総合整備事業	杵築速見2期 農道 ワラビノ	山香町大字吉野渡	道路工 L=720m	別杵速見地方振興局 耕地課 園田耕司	H18.6.1~	山香町	D
6	中山間地域総合整備事業	杵築速見2期 集落道 上ノ原	日出町大字豊岡	道路工 L=800m	別杵速見地方振興局 耕地課 秋篠雅子	H18.10.1~	日出町	E
7	森林居住環境整備事業	森林基幹道 大分中部線	湯布院町大字中川	1,400m	大分地方振興局 林業水産課 本田真一	H18.8中旬~	湯布院町	D
8	森林居住環境整備事業	森林基幹道 入蔵大峠線	大分市大字 入蔵~沢田	300m	大分地方振興局 林業水産課 本田真一	H18.9月上旬~	大分市	D
9	県単林道事業	県単林道 戸塚山線	大分市大字佐野	200m	大分市 耕地林業課 矢野 圭	H18.9月上旬~	大分市	D
10	県単林道事業	県単林道 高ツブ口線	大分市大字萩尾	200m	大分市 耕地林業課 矢野 圭	H18.9月上旬~	大分市	D
11	県単林道事業	県単林道 城山線	大分市大字端登	200m	大分市 耕地林業課 二宮 繁	H18.9月上旬~	大分市	A
12	中山間地域総合整備事業	白杵(半三)	白杵市大字広原	道路工 660m	白津関地方振興局 耕地課 木田俊吉	H18.7.1~	白杵市	D
13	中山間地域総合整備事業	白杵(搔懐)	白杵市大字搔懐	道路工 330m	白津関地方振興局 耕地課 木田俊吉	H18.7.1~	白杵市	A
14	広域農道整備事業	関白津	白杵市大字大浜	道路工 475m	白津関地方振興局 耕地課 赤嶺謙二	H18.7.1~	白杵市	D
15	畑地帯総合整備事業	家野	白杵市大字家野	道路工 600m	白津関地方振興局 耕地課 御領園進	H18.7.1~	白杵市	A
16	森林居住環境整備事業	森林基幹道 吉四六線	野津町大字 白岩~東谷	400m	白津関地方振興局 林業課 松田 隆	H18.8.1~	白杵市	D
17	広域農道整備事業	大野南部	白杵市野津町大字 東谷	路床工 800m	大野地方振興局 耕地課 赤嶺康信	H18.9.30~	白杵市 野津町	D
18	広域農道整備事業	大野南部	白杵市野津町西畑	路床工 480m	大野地方振興局 耕地課 赤嶺康信	H18.9.30~	白杵市 野津町	D
19	森林環境保全整備事業	森林管理道 一の鳥居線	津久見市大字八戸	600m	白津関地方振興局 林業課 日隈宏隆	H18.8.1~	津久見市	D
20	中山間地域総合整備事業	大野西部(小畑)	豊後大野市朝地町 市万田	路床工 170m	大野地方振興局 耕地課 小野辰三	H18.9.30~	豊後大野市 朝地町	D
21	中山間地域総合整備事業	大野西部(尾園)	豊後大野市緒方町 小宛	路床工 330m	大野地方振興局 耕地課 小野辰三	H18.9.30~	豊後大野市 緒方町	D
22	追加分	大野西部(尾園)	豊後大野市緒方町 馬場・越生		大野地方振興局 耕地課	H18.9.30~	豊後大野市 緒方町	D
23	中山間地域総合整備事業	大野西部(宝生寺)	豊後大野市清川町 宇田枝	路床工 990m	大野地方振興局 耕地課 小野辰三	H18.9.30~	豊後大野市 清川町	D
24	中山間地域総合整備事業	大野西部(源泉合方)	豊後大野市清川町 砂田	路床工 545m	大野地方振興局 耕地課 小野辰三	H18.9.30~	豊後大野市 清川町	D
25	広域農道整備事業	大野南部	豊後大野市三重町 小坂	路床工 200m	大野地方振興局 耕地課 廣瀬公治	H18.9.30~	豊後大野市 三重町	B
26	農免農道整備事業	直北2期	豊後大野市大野町 北園	路床工 365m	大野地方振興局 耕地課 筒井浩次	H18.9.30~	豊後大野市 大野町	B
27	一般農道整備事業	徳尾2期	豊後大野市緒方町 平石	路床工 300m	大野地方振興局 耕地課 筒井浩次	H18.9.30~	豊後大野市 緒方町	D
28	経営体育成基盤整備事業	" (")	豊後大野市大字木野	区画整理 1.8ha	大野川上流開発事業事務所 工務課 平野太一	H18.10.15~	豊後大野市	B
29	県単林道整備事業	栗ヶ畑・炎線	豊後大野市犬飼町 栗ヶ畑	163m	豊後大野市犬飼支所 産業経済課 高木光治	H18.6~	豊後大野市	D
30	森林居住環境整備事業	森林基幹道 三国灰立線	豊後大野市三重町 小坂~鷺谷	1,500m	大野地方振興局 林業課 市原広文	H18.6.10~	豊後大野市	D
31	県単林道整備事業	栗ヶ畑・炎線	豊後大野市犬飼町 栗ヶ畑	163m	豊後大野市犬飼支所 産業経済課 高木光治	H18.6~	豊後大野市	D
32	農免農道整備	巢原2期	竹田市久住町大字 白丹	路床工 1,000m	竹田直入地方振興局 耕地課 工藤 和	H18.4.1~	竹田市 久住町	D
33	経営体育成基盤整備事業	久住南部 (巢原・宮原工区)	竹田市久住町大字 白丹	区画整理 A=9.0ha	竹田直入地方振興局 耕地課 佐藤広光	H18.4.1~	竹田市	D
34	経営体育成基盤整備事業	岡本(中村工区)	竹田市大字三宅	区画整理 A=20.0ha	竹田直入地方振興局 耕地課 佐藤広光	H18.5.1~	竹田市	一部B
35	経営体育成基盤整備事業	下坂田 (下坂田上深迫工区)	竹田市大字下坂田	区画整理 A=20.0ha	竹田直入地方振興局 耕地課 下村政見	H18.5.1~	竹田市	B
36	経営体育成基盤整備事業	城原北部 (福原・北長工区)	竹田市大字 小川・福原	区画整理 A=10.0ha	竹田直入地方振興局 耕地課 小野貴史	H18.5.1~	竹田市	B

37	経営体育成基盤整備事業	竹田北部	竹田市大字下志土知	集落道 L=1,000m	竹田直入地方振興局 耕地課 工藤 和	H18. 4. 1 ~	竹田市	D
38	経営体育成基盤整備事業	竹田北部	竹田市大字市用	集落道 L=200m	竹田直入地方振興局 耕地課 工藤 和	H18. 4. 1 ~	竹田市	D
39	圃場整備 (追加分)	竹田北部	竹田市大字市用		竹田直入地方振興局 耕地課	H18. 4. 1 ~	竹田市	D
40	経営体育成基盤整備事業	太田 (姿・岩本)	竹田市大字太田	区画整理7.0ha 集落道657m	大野川上流開発事業事務所 工務課 平野太一	H18.10.15~	竹田市	B
41	森林環境保全整備事業	森林管理道 筒井原葛路線	竹田市直入町大字 長湯	2,000m	竹田直入地方振興局 林業課 渡邊芳郎	H18. 9. 1 ~	竹田市	D
42	県単林道整備事業	県単林道 網掛線	竹田市荻町鳴田	250m	竹田直入地方振興局 林業課 渡邊芳郎	H18.10. 1 ~	竹田市	D
43	森林居住環境整備事業	森林基幹道 宇目蒲江線 (1)	佐伯市直川大字赤木	150m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10~	佐伯市	D
44	森林居住環境整備事業	森林基幹道 宇目蒲江線 (2)	佐伯市大字青山	500m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10~	佐伯市	D
45	森林居住環境整備事業	森林基幹道 宇目蒲江線 (3)	佐伯市大字青山	150m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10~	佐伯市	D
46	森林居住環境整備事業	森林基幹道 宇目蒲江線 (直川2)	佐伯市直川大字 仁田原	150m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10~	佐伯市	D
47	森林環境保全整備事業	森林管理道 大刈野線 (1)	佐伯市宇目大字 木浦内	270m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10~	佐伯市	D
48	森林環境保全整備事業	森林管理道 大刈野線 (2)	佐伯市宇目大字 木浦内	200m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10~	佐伯市	D
49	森林環境保全整備事業	森林管理道 葛葉西山線	佐伯市宇目大字 南田原	630m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10~	佐伯市	D
50	森林環境保全整備事業	森林管理道 竹ノ河内線	佐伯市弥生大字床木	180m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10~	佐伯市	D
51	森林環境保全整備事業	森林管理道 提内簾山線	佐伯市弥生大字提内	250m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10~	佐伯市	D
52	森林居住環境整備事業	森林管理道 船河内2号線	佐伯市大字青山	350m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10~	佐伯市	D
53	森林居住環境整備事業	森林管理道 船河内3号線	佐伯市大字長谷	380m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10~	佐伯市	D
54	森林居住環境整備事業	森林管理道 表口線	佐伯市大字堅田	220m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10~	佐伯市	D
55	経営体育成基盤整備事業	古後 (柚ノ木、平原)	玖珠町大字古後	区画整理 10ha	玖珠九重地方振興局 耕地課 吉良賢太	H18. 5. 10~	玖珠町	B
56	農免農道整備事業	伐株2期	玖珠町大字山田	路床工 600m	玖珠九重地方振興局 耕地課 吉良賢太	H18. 5. 10~	玖珠町	A
57	広域農道整備事業	玖珠2期	玖珠町大字岩室	路床工 700m	玖珠九重地方振興局 耕地課 藤田正明	H18. 5. 10~	玖珠町	D
58	中山間地域総合整備事業	玖珠 (天道)	玖珠町大字戸畑	区画整理 10ha	玖珠九重地方振興局 耕地課 竹内直隆	H18. 5. 10~	玖珠町	B
59	中山間地域総合整備事業	玖珠 (円得野)	玖珠町大字戸畑	区画整理 4ha	玖珠九重地方振興局 耕地課 竹内直隆	H18. 5. 10~	玖珠町	B
60	経営体育成基盤整備事業	求来里 (名里)	日田市大字求来里	区画整理 A=3.0ha	日田地方振興局 耕地課 坂本淳一	H18.10. 1 ~	日田市	A
61	農免農道整備事業	合田3期	日田市天瀬町合田	路床工 200m	日田地方振興局 耕地課 井上伸也	H18.10. 1 ~	日田市	D
62	中山間地域総合整備事業	大山 (上野道路)	日田市大山町西大山	路床工 280m	日田地方振興局 耕地課 未廣 理	H18.10. 1 ~	日田市	D
63	中山間地域総合整備事業	大山 (小切畑道路)	日田市大山町西大山	路床工 85m	日田地方振興局 耕地課 未廣 理	H18.10. 1 ~	日田市	D
64	中山間地域総合整備事業	中津江 (宮園石場線)	日田市中津江村合瀬	路床工 1,173m	日田地方振興局 耕地課 志賀美樹	H18. 5. 1 ~	日田市	D
65	農地環境整備事業	小野 (殿町工区)	日田市大字小野	区画整理 A=8.8ha	日田地方振興局 耕地課 時任寛貴	H18.10. 1 ~	日田市	B
66	農地環境整備事業	小野 (中山工区)	日田市大字小野	区画整理 A=3.5ha	日田地方振興局 耕地課 時任寛貴	H18.10. 1 ~	日田市	B
67	追加 中山間地域総合整備事業		日田市大山町 旧大山町役場				日田市	B
68	森林居住環境整備事業	森林基幹道 岳滅鬼線	日田市大字小野	1,000m	日田地方振興局 林業課 工藤祐一	H18. 5. 10~	日田市	D
69	森林居住環境整備事業	森林基幹道 曾家中西線	日田市前津江町赤石 日田市中津江村合瀬	1,000m	日田地方振興局 林業課 工藤祐一	H18. 5. 10~	日田市	D
70	農村活性化住環境 整備事業	諸田定留	中津市大字諸田	区画整理 A=5.0ha	中津下毛地方振興局 耕地課 都留俊明	H18. 7. 1 ~	中津市	A
71	中山間地域総合整備事業	山国	中津市山国町大字 大勢	区画整理 A=4.5ha	中津下毛地方振興局 耕地課 有延 滋	H18. 7. 1 ~	中津市 山国町	B
72	広域農道整備事業	耶馬溪東部	中津市耶馬溪町 大字深耶馬	路床工 L=500m	中津下毛地方振興局 耕地課 麻生春治	H18.10. 1 ~	中津市 (耶馬溪町)	D
73	道整備交付金事業	森林基幹道 岳滅鬼線	中津市山国町大字 榎木	500m	中津下毛地方振興局 林業水産課 長谷部孝行	H18. 7. 1 ~	中津市 山国町	D
74	道整備交付金事業	相ノ原毛谷村線	中津市山国町 ・耶馬溪町	1,410m	中津下毛地方振興局 林業水産課 小関 崇	H18. 7. 1 ~	中津市 山国町 耶馬溪町	D

37	経営体育成基盤整備事業	竹田北部	竹田市大字下志土知	集落道 L=1,000m	竹田直入地方振興局 耕地課 工藤 和	H18. 4. 1～	竹田市	D
38	経営体育成基盤整備事業	竹田北部	竹田市大字市用	集落道 L=200m	竹田直入地方振興局 耕地課 工藤 和	H18. 4. 1～	竹田市	D
39	圃場整備 (追加分)	竹田北部	竹田市大字市用		竹田直入地方振興局 耕地課	H18. 4. 1～	竹田市	D
40	経営体育成基盤整備事業	太田 (姿・岩本)	竹田市大字太田	区画整理7.0ha 集落道路657m	大野川上流開発事業事務所 工務課 平野太一	H18.10.15～	竹田市	B
41	森林環境保全整備事業	森林管理道 筒井原葛路線	竹田市直入町大字 長湯	2,000m	竹田直入地方振興局 林業課 渡邊芳郎	H18. 9. 1～	竹田市	D
42	県単林道整備事業	県単林道 網掛線	竹田市荻町鳴田	250m	竹田直入地方振興局 林業課 渡邊芳郎	H18.10. 1～	竹田市	D
43	森林居住環境整備事業	森林基幹道 宇目蒲江線(1)	佐伯市直川大字赤木	150m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10～	佐伯市	D
44	森林居住環境整備事業	森林基幹道 宇目蒲江線(2)	佐伯市大字青山	500m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10～	佐伯市	D
45	森林居住環境整備事業	森林基幹道 宇目蒲江線(3)	佐伯市大字青山	150m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10～	佐伯市	D
46	森林居住環境整備事業	森林基幹道 宇目蒲江線(直川2)	佐伯市直川大字 仁田原	150m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10～	佐伯市	D
47	森林環境保全整備事業	森林管理道 大刈野線(1)	佐伯市宇目大字 木浦内	270m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10～	佐伯市	D
48	森林環境保全整備事業	森林管理道 大刈野線(2)	佐伯市宇目大字 木浦内	200m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10～	佐伯市	D
49	森林環境保全整備事業	森林管理道 葛葉西山線	佐伯市宇目大字 南田原	630m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10～	佐伯市	D
50	森林環境保全整備事業	森林管理道 竹ノ河内線	佐伯市弥生大字床木	180m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10～	佐伯市	D
51	森林環境保全整備事業	森林管理道 堤内籬山線	佐伯市弥生大字堤内	250m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10～	佐伯市	D
52	森林居住環境整備事業	森林管理道 船河内2号線	佐伯市大字青山	350m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10～	佐伯市	D
53	森林居住環境整備事業	森林管理道 船河内3号線	佐伯市大字長谷	380m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10～	佐伯市	D
54	森林居住環境整備事業	森林管理道 表口線	佐伯市大字堅田	220m	佐伯南郡地方振興局 林業課 古閑賢臣	H18. 7. 10～	佐伯市	D
55	経営体育成基盤整備事業	古後 (柚ノ木、平原)	玖珠町大字古後	区画整理 10ha	玖珠九重地方振興局 耕地課 吉良賢太	H18. 5. 10～	玖珠町	B
56	農免農道整備事業	伐株2期	玖珠町大字山田	路床工 600m	玖珠九重地方振興局 耕地課 吉良賢太	H18. 5. 10～	玖珠町	A
57	広域農道整備事業	玖珠2期	玖珠町大字岩室	路床工 700m	玖珠九重地方振興局 耕地課 藤田正明	H18. 5. 10～	玖珠町	D
58	中山間地域総合整備事業	玖珠 (天道)	玖珠町大字戸畑	区画整理 10ha	玖珠九重地方振興局 耕地課 竹内直隆	H18. 5. 10～	玖珠町	B
59	中山間地域総合整備事業	玖珠 (円得野)	玖珠町大字戸畑	区画整理 4ha	玖珠九重地方振興局 耕地課 竹内直隆	H18. 5. 10～	玖珠町	B
60	経営体育成基盤整備事業	求来里 (名里)	日田市大字求来里	区画整理 A=3.0ha	日田地方振興局 耕地課 坂本淳一	H18.10. 1～	日田市	A
61	農免農道整備事業	合田3期	日田市天瀬町合田	路床工 200m	日田地方振興局 耕地課 井上伸也	H18.10. 1～	日田市	D
62	中山間地域総合整備事業	大山 (上野道路)	日田市大山町西大山	路床工 280m	日田地方振興局 耕地課 未廣 理	H18.10. 1～	日田市	D
63	中山間地域総合整備事業	大山 (小切畑道路)	日田市大山町西大山	路床工 85m	日田地方振興局 耕地課 未廣 理	H18.10. 1～	日田市	D
64	中山間地域総合整備事業	中津江 (宮園石場線)	日田市中津江村合瀬	路床工 1,173m	日田地方振興局 耕地課 志賀美樹	H18. 5. 1～	日田市	D
65	農地環境整備事業	小野 (殿町工区)	日田市大字小野	区画整理 A=8.8ha	日田地方振興局 耕地課 時任寛貴	H18.10. 1～	日田市	B
66	農地環境整備事業	小野 (中山工区)	日田市大字小野	区画整理 A=3.5ha	日田地方振興局 耕地課 時任寛貴	H18.10. 1～	日田市	B
67	追加 中山間地域総合整備事業		日田市大山町 旧大山町役場				日田市	B
68	森林居住環境整備事業	森林基幹道 岳滅鬼線	日田市大字小野	1,000m	日田地方振興局 林業課 工藤祐一	H18. 5. 10～	日田市	D
69	森林居住環境整備事業	森林基幹道 曾家中西線	日田市前津江町赤石 日田市中津江村合瀬	1,000m	日田地方振興局 林業課 工藤祐一	H18. 5. 10～	日田市	D
70	農村活性化住環境 整備事業	諸田定留	中津市大字諸田	区画整理 A=5.0ha	中津下毛地方振興局 耕地課 都留俊明	H18. 7. 1～	中津市	A
71	中山間地域総合整備事業	山国	中津市山国町大字 大勢	区画整理 A=4.5ha	中津下毛地方振興局 耕地課 有延 滋	H18. 7. 1～	中津市 山国町	B
72	広域農道整備事業	耶馬溪東部	中津市耶馬溪町 大字深耶馬	路床工 L=500m	中津下毛地方振興局 耕地課 麻生春治	H18.10. 1～	中津市 (耶馬溪町)	D
73	道整備交付金事業	森林基幹道 岳滅鬼線	中津市山国町大字 槻木	500m	中津下毛地方振興局 林業水産課 長谷部孝行	H18. 7. 1～	中津市 山国町	D
74	道整備交付金事業	相ノ原毛谷村線	中津市山国町 ・耶馬溪町	1,410m	中津下毛地方振興局 林業水産課 小関 崇	H18. 7. 1～	中津市 山国町 耶馬溪町	D

75	道整備交付金事業	市平両畑線	中津市山国町 ・耶馬溪町	1,523m	中津下毛地方振興局 林業水産課 小関 崇	H18.7.1～	中津市 山国町 耶馬溪町	D
76	道整備交付金事業	伏辺野線	中津市本耶馬溪町 大字西谷	980m	中津下毛地方振興局 林業水産課 小関 崇	H18.7.1～	本耶馬溪町	D
77	農免農道整備事業	小板場3期地区	宇佐市安心院町板場	路床工 160m	宇佐両院地方振興局 耕地課 伊東孝浩	H18.9.1～	宇佐市 (安心院町)	D
78	ため池等整備事業	熊本池	宇佐市大字末	1 式	宇佐両院地方振興局 耕地課 吉田友春	H18.6.1～	宇佐市	A
79	ため池等整備事業	大口田	宇佐市安心院町	水路工 1,500m	宇佐両院地方振興局 耕地課 吉田友春	H18.9.1～	宇佐市 安心院町	D
80	中山間地域総合整備事業	両院2期地区 大重見工区	宇佐市院内町大重見	水路工 1,000m	宇佐両院地方振興局 耕地課 吉田友春	H18.9.1～	宇佐市 院内町	D
81	中山間地域総合整備事業	両院2期地区 小野川内工区	宇佐市院内町 小野川内	水路工 600m	宇佐両院地方振興局 耕地課 吉田友春	H18.6.1～	宇佐市 院内町	D
82	中山間地域総合整備事業	両院2期地区 有徳原工区	宇佐市安心院町下毛	水路工 5,000m	宇佐両院地方振興局 耕地課 吉田友春	H18.7.1～	宇佐市 安心院町	D
83	地すべり対策事業	田平第2地区	宇佐市院内町田平	2.0ha	宇佐両院地方振興局 耕地課 吉武史弥	H18.10.1～	宇佐市 院内町	D
84	森林居住環境整備事業	アクセス林道 天念寺屋山線	豊後高田市大字 長岩屋	ルート変更分 400m	西高地方振興局 林業水産課 飯田和彦	H18.6月上旬～	豊後高田市	B
85	中山間地域総合整備事業	夢産地匠の里 (前高工区)	佐伯市本匠大字波寄	ほ場整備 0.9ha	佐伯南郡地方振興局 耕地課 谷 博文	H18.10.1～	佐伯市	D
86	中山間地域総合整備事業	中津江(高迫線)	日田市中津江村合瀬	路床工 L=577m	日田地方振興局 耕地課 志賀美樹	H18.5.1～	日田市	D
87	農免農道整備事業	長宝2期	由布市庄内町大字 東長宝	道路工 L=1,090m	大分地方振興局 耕地課	H19.3.1～	由布市	A B
88	ため池等整備事業	小づつみ溜池	大分市南大平寺	1 式	大分地方振興局 耕地課	H21.3.1～	大分市	D



佐伯市本匠大字波寄  
平成18年度圃場整備予定地分布調査

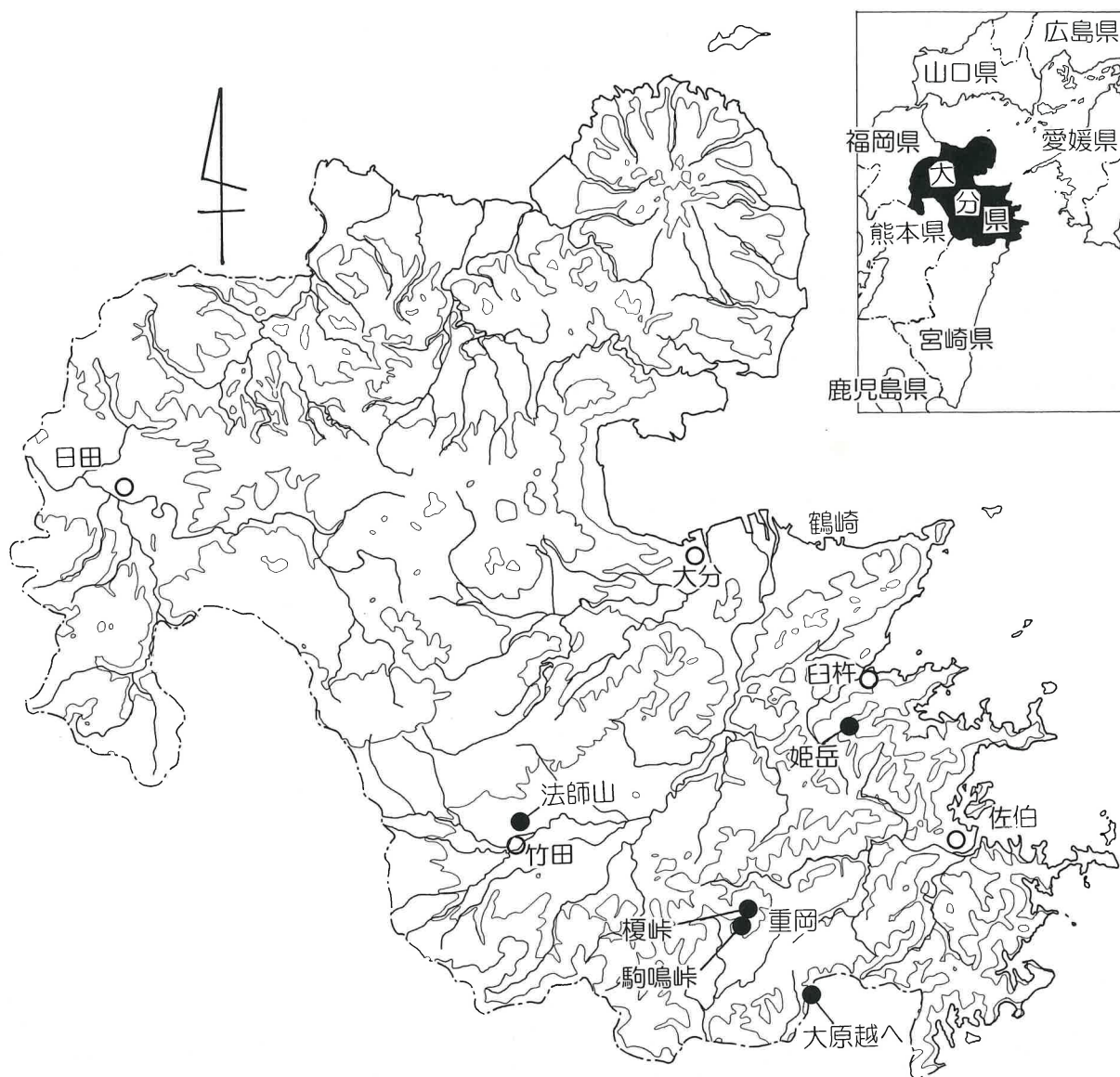


豊後大野市三重町  
大分県立三重農業高等学校普通課棟改築工事に伴う試掘調査

## II 西南戦争戦跡調査

この大分県内遺跡発掘調査事業で西南戦争の戦跡調査を行うのは今年度で二年目である。

今年度は下記の測量と分布調査を実施した。測量調査は佐伯市宇目の大原越へ（宇目大原と宮崎県東臼杵郡北川町柚ヶ内とを結ぶ旧道の尾根道）南部で昨年度発見した多稜堡塁群の測量、分布調査は宇目の重岡から田代周辺、旧宇目町役場周辺、大原周辺、竹田市法師山一帯、臼杵市姫岳で行った。



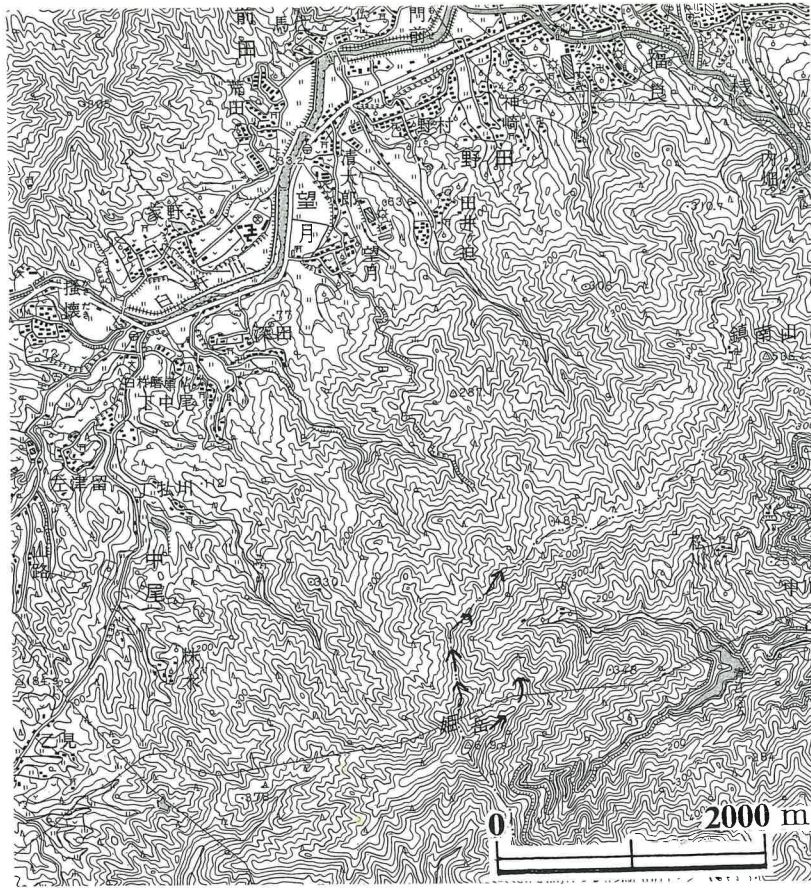
第1図 大分県の西南戦争関係地図

### 1 分布調査

#### 1. 臼杵市姫岳

臼杵市と津久見市の境には東西に山地が連なっている。最高峰が鎮南山（586m）で、その南西側約4kmの尾根続きに聳えるのが姫岳（619m）である。この山には南北朝期の山城跡があり、西南戦争の際は政府軍が姫岳に露營したという次の記録がある。「征西戦記稿」6月10日の「十日右翼兵ハ大迂回ヲ為シ臼杵ノ賊ヲ夾撃セン為メ姫嶽ニ露營シ天明ヲ待ツ（略）戦ヲ酣ナル比ニ右翼果シテ賊背ニ突出シ高處ヨリ瞰射ス」である。臼杵市教育委員会の参加を得て今年度姫岳周辺の踏査を実施するとともに、縄張り図の作成を行った。図の→印が踏査範囲である。西南戦争に



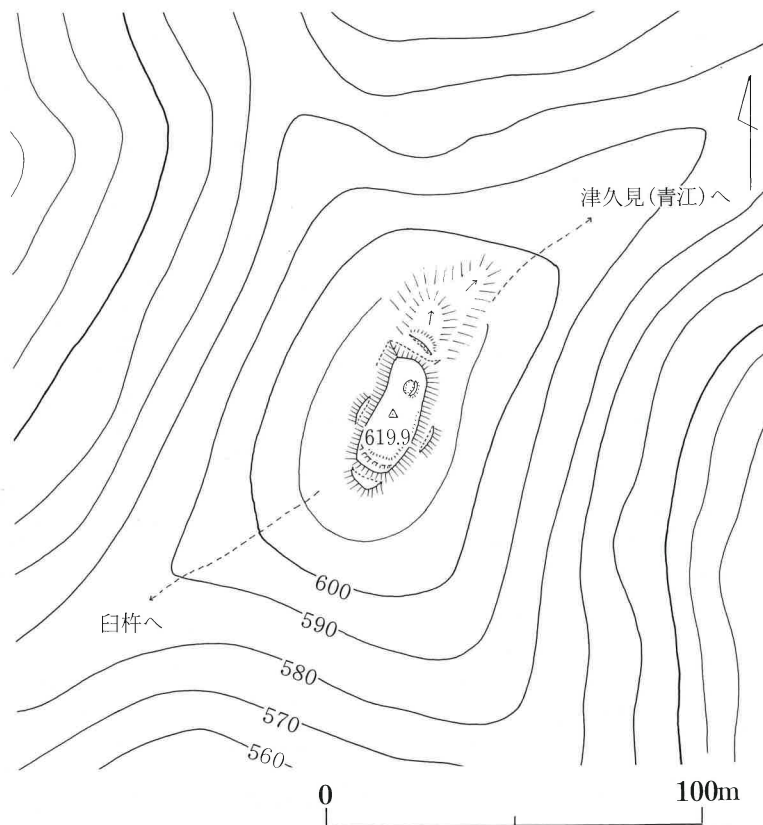


関係すると思われる遺構は頂上東部で土塁と内側の窪みからなる台場らしきもの一ヶ所を確認しただけであった。東南の津久見市側の尾根、北側尾根、東の鎮南山方向の尾根を踏査したが、すべて遺構は確認できなかった。もう少し市街地背後に近い鎮南山から延びた尾根に遺構が存在するのかも知れない。

### 姫岳城

永享7（1435）年、前豊後国守護大友持直や津久見衆らが立て籠もる姫岳は、大内氏など四国・中国勢を中心とした幕府軍に攻められ、翌年落城した。城は四方に伸びる尾根はそのままに、長軸方向の二ヶ所を堀切と切岸によって遮断するシンプルなものである。後に使われた記録は無いので、永享年間の姿をそのまま残すと見てよかろう。中央部には西南戦争時の塹壕の跡と思われる落込みがある（姫岳城：小柳）。

第2図 姫岳位置図（1/50,000図）



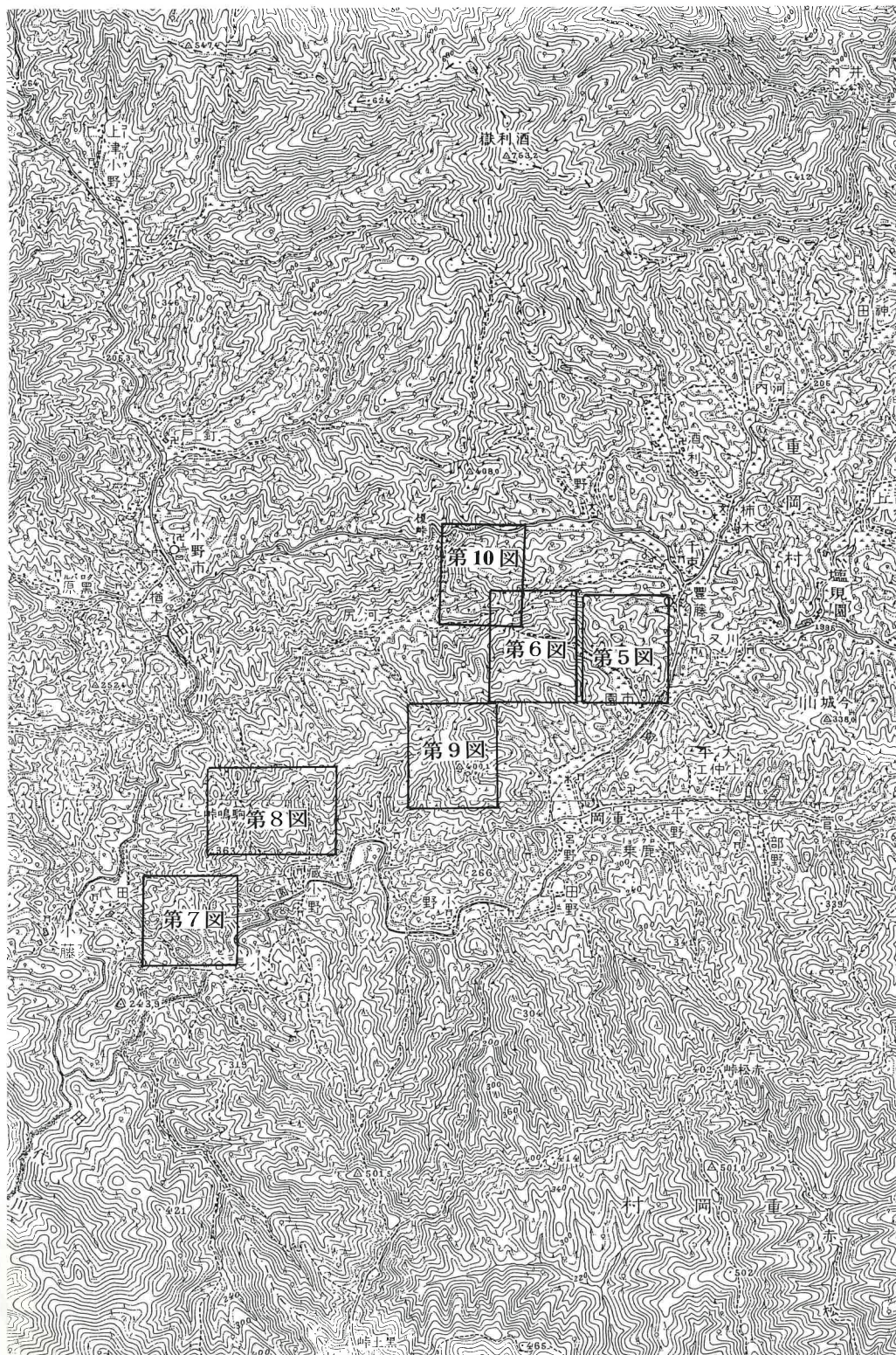
第3図 姫岳城縄張図（S = 1/2,000）

## 2. 佐伯市宇目大字重岡・大原周辺

今年度の宇目における分布調査は、主に宇目大字重岡在住の甲斐弘美氏に現地を案内していただきに行った。

重岡は西南戦争当時、大分県と現宮崎県（当時は鹿児島県だった）を結ぶ公式路線にある県内最南端の大集落であった。初め、薩軍の侵入に備えて警察分署が置かれたのもここで、予想通り薩軍は重岡を通過して5月12日大分県内に侵攻した。以後、重岡は政府軍により奪回されたり、薩軍の逆襲があったり、8月中旬まで両軍による争奪の中心地であった。

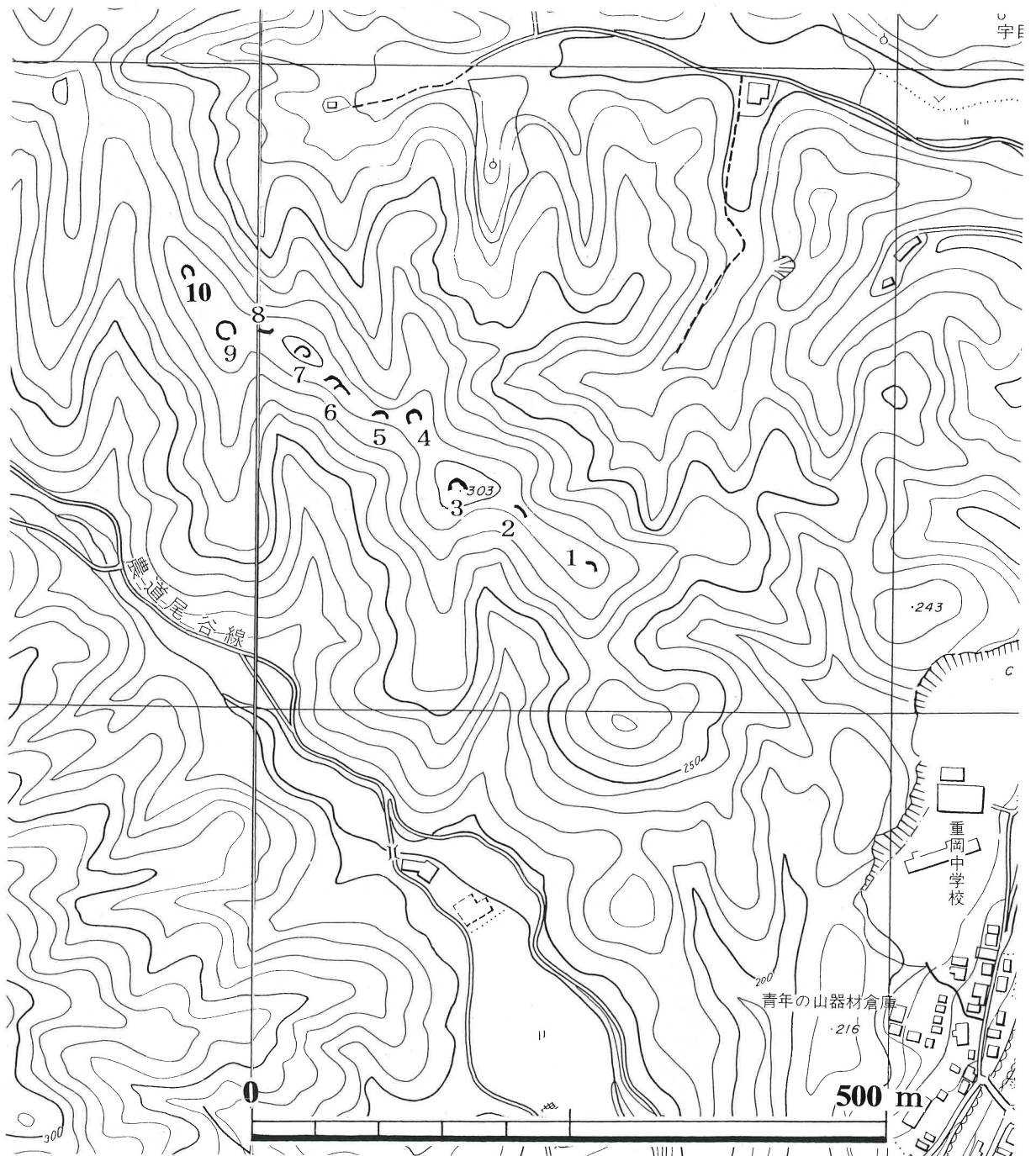
大原は重岡の東方に位置し、旧佐伯市や旧直川村等豊後水道沿岸に至る地域と連絡する中継点である。



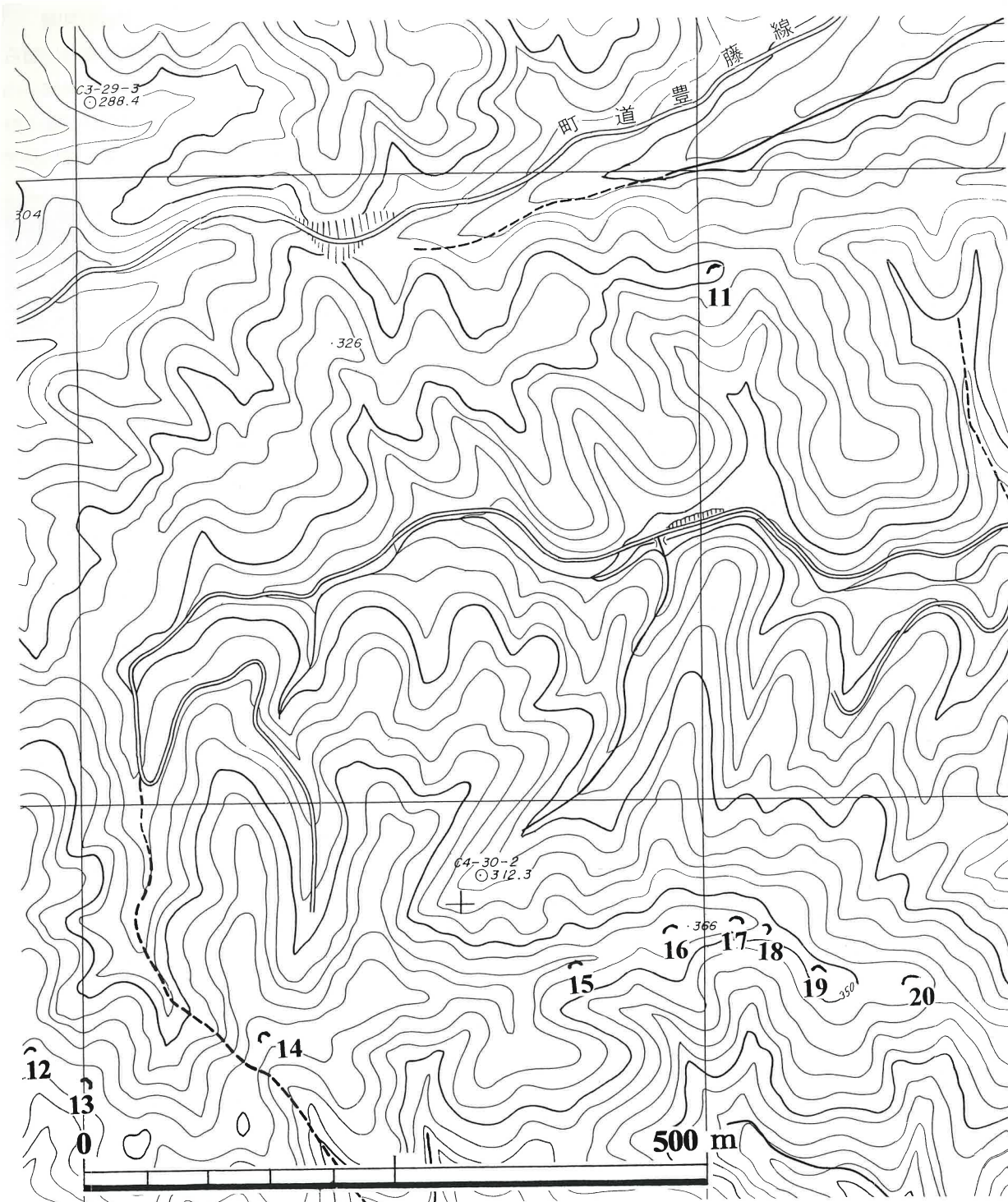
第4図 佐伯市宇目重岡周辺 1/50,000図（明治34年）

### 重岡中学校西側 (第5・6図)

重岡中学校西側の地域である。ここでは中学校背後から北西に延びる尾根線で10基の台場を確認した。台場1の南にある峯と東側に一段下がった平地にはなかった。台場2は尾根線の一番低いところにあり、北西方向を警戒して造られた直線的な土塁である。3は内部に三等三角点がある。6付近では南西斜面に旧道が走り、その上には二段構成の台場がある。台場7は旧道から出入りできるようになっており、土塁の残り具合がよく、西部では高さ1.5mある。8は南向きに造られている。9は高さ1.5m程度の土塁が5／6周する。第二次大戦中哨戒所となり、上に建物が建っていたということである。中央部分は柱状に掘り残す。それから500mほどは台場が無いが、ポツンと11が北西向きにある。北側の眼下を市道豊藤線が東西方向に通っており、その北側には旧宇目町役場との間を山地が遮る。そこには政府軍のものと思われる台場群が相対している。台場11から600m西に尾根を行くと旧道の峠道（尾谷越へ）がある。藤丸警部が大分県への薩軍侵入を通報するため重岡から竹田に行ったときに通ったとのことである（甲斐氏



第5図 重岡中学校西側① (1/5,000図)



第6図 重岡中学校西側② (1/5,000図)

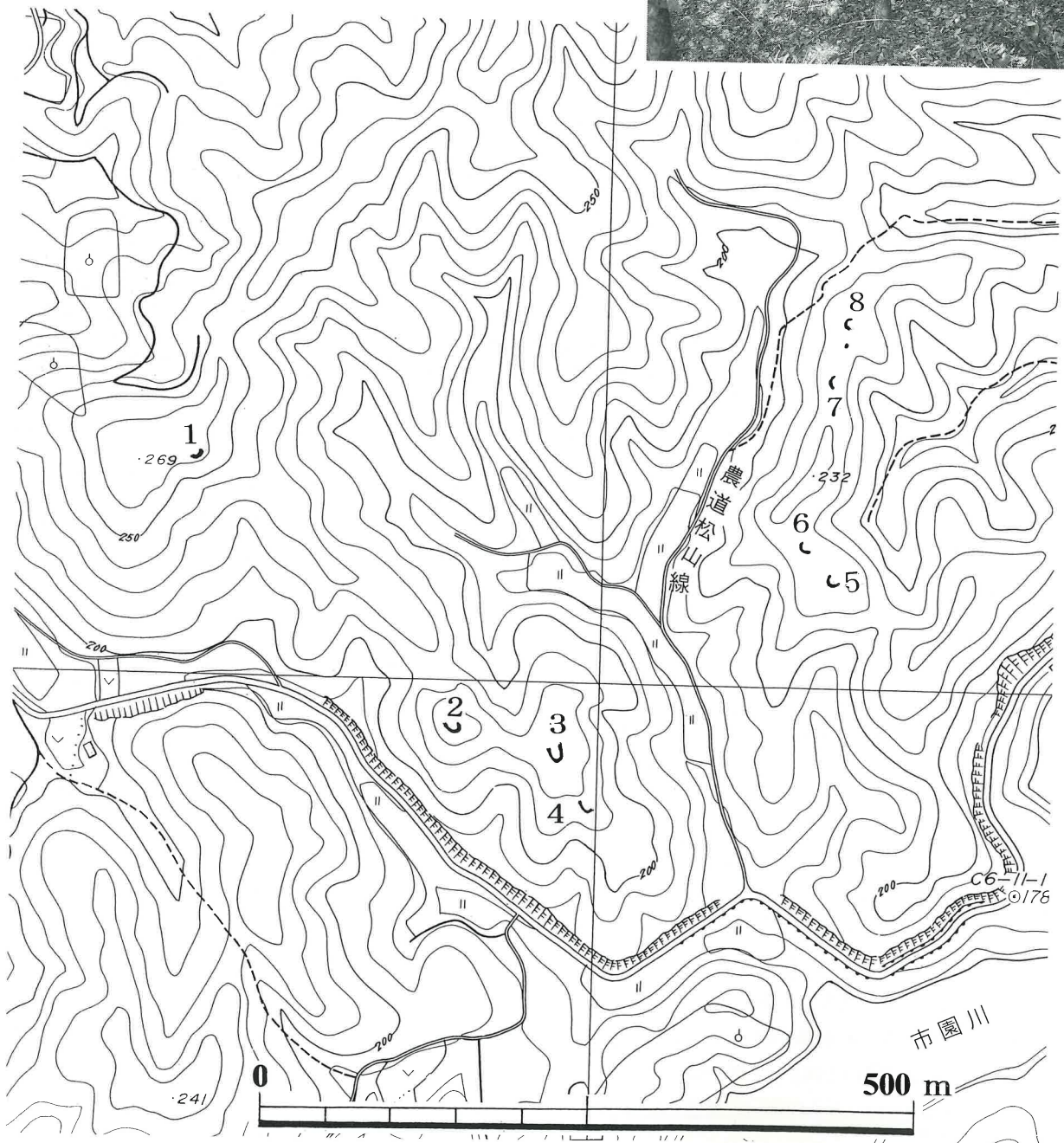
談)。1から11は標高290m以上にあり、周辺で最も高い主尾根を選定したことが分かる。主尾根から派生した支尾根には造られていない。これらは北東から尾根の高所である北西向きに配置されており、薩軍が築造したものであろう。11の北側の谷越に見える尾根には政府軍の台場10基がある（第10図）。

第5図の南側地域である第6図では9基の台場を確認した（12～20）。台場12～18は半円形で北側斜面を警戒して造られているが、19・20はJ字形をなし尾根線の上（西側）と北側斜面を警戒している。12の位置は不正確である。以上9基は340mから390mの標高に分布する。

### 田代集落東側（第7図）

田代は北川の上流である田代川沿いの集落で、宮崎方向から梓山や板戸山を避けて北川沿いに北上する場合、通らなければならない場所にある。集落の北東側山地の頂上に駒鳴砦跡がある。田代からは砦跡の南麓を廻って東側の小長谷を経て、蔵小野、重岡に通じる路線がある。東から来た市園川が田代の下流で合流するが、当時川沿いに蔵小野から北川に出る道はなかった。田代の東側、市園川の北側の通路周辺の台場分布状態を第7図に示す。図下部にジグザグに走り、台場3の東で北上するのがほぼ古道である。

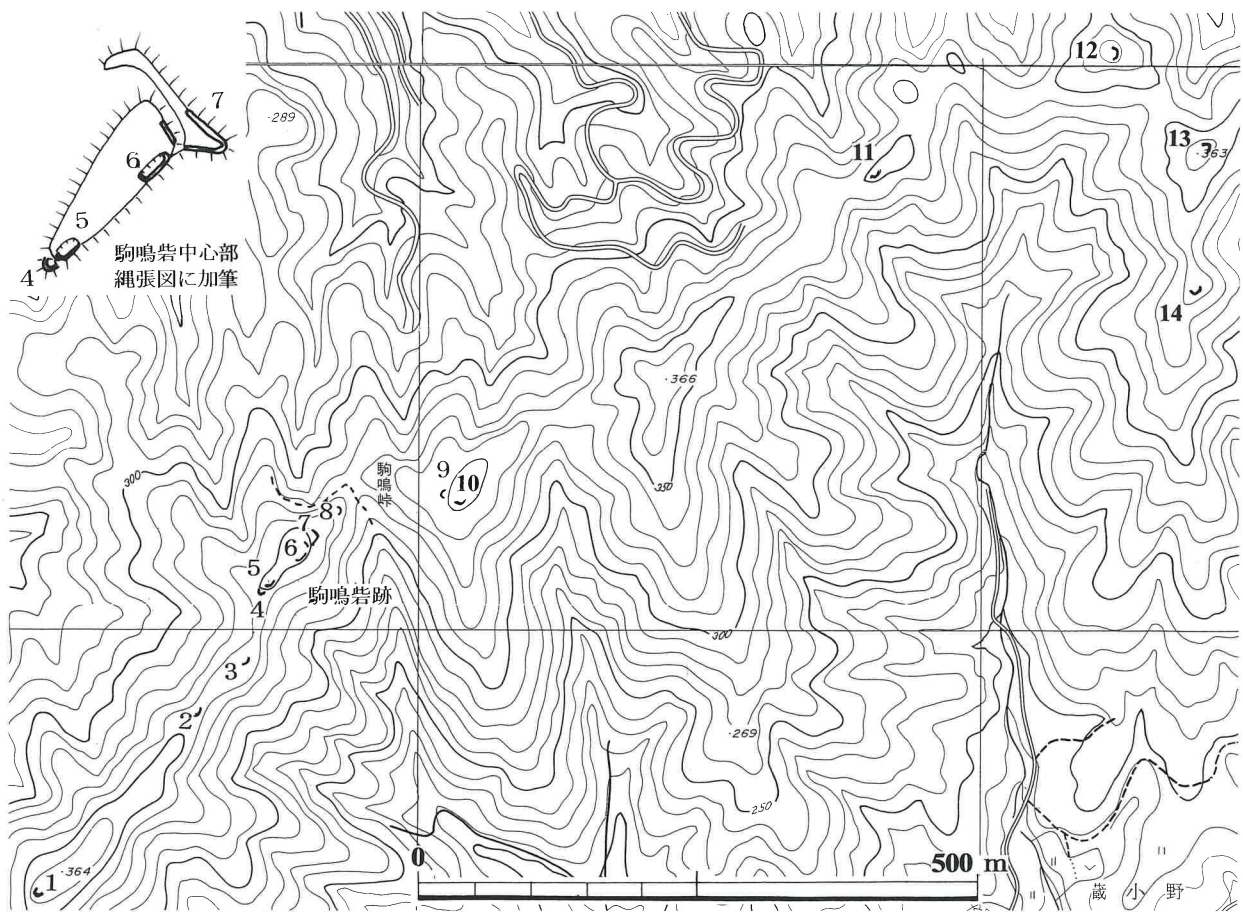
台場が路線の北側に4基、東側に4基分布する。台場1の北東に続く尾根には存在しない。台場3の土塁部の一部は角礫を積んでいる（写真は甲斐弘美氏）。内側を掘り下げた際に出たものを利用したものである。台場4と市園川の間には存在しない。



第7図 田代集落東側（1/5,000図）

### 駒鳴峠周辺 (第8図)

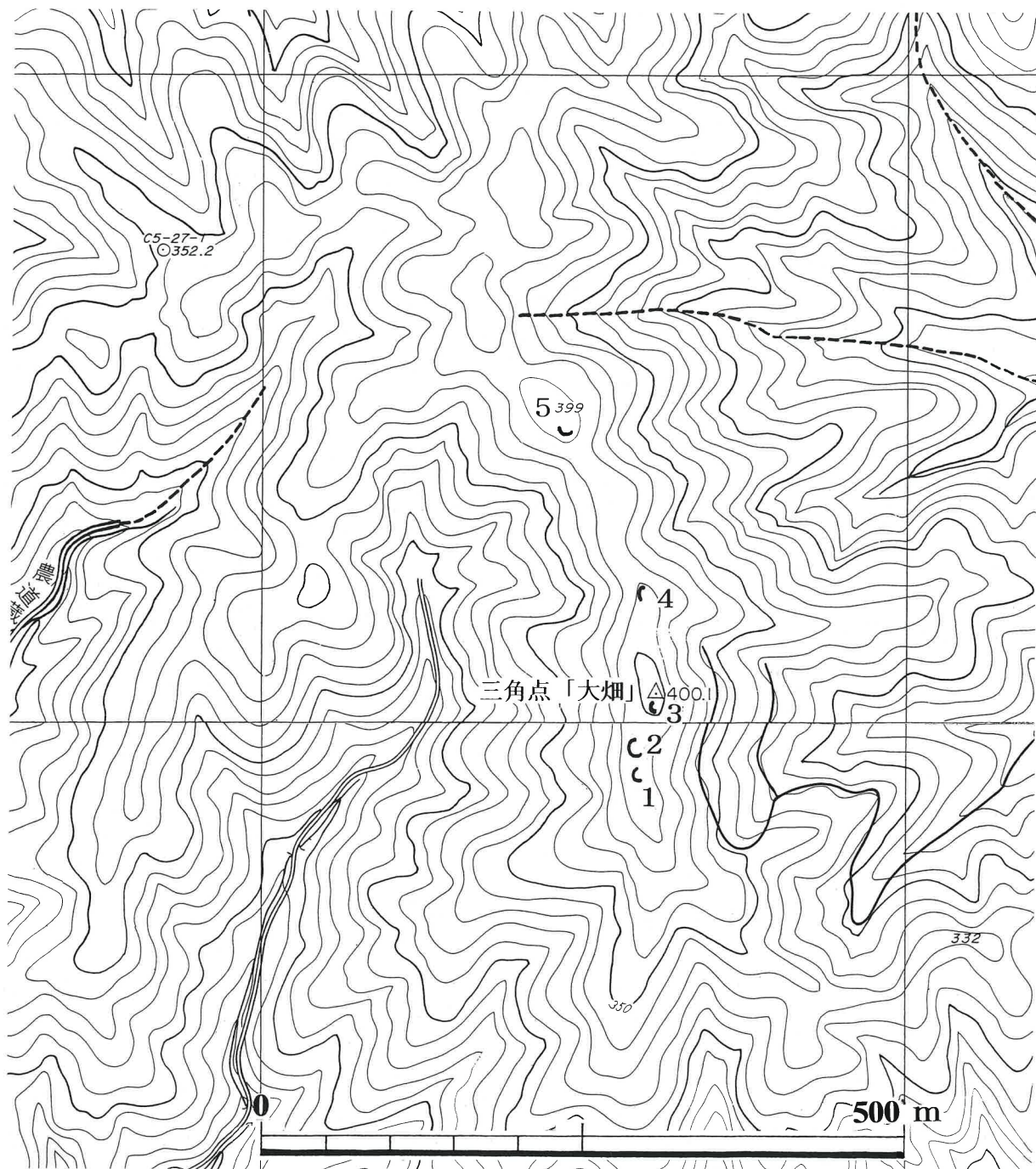
市園川右岸には、古代の官道路線にも比定される駒鳴峠が横断する水面からの比高差200m前後の峯が東西に連なっている。峠から西側500mの間には8基の台場がある。台場8は東向きに駒鳴峠への道を見下ろすように位置する。4から7は中世の駒鳴砦跡の範囲にある。台場7は下段の曲輪のうち尾根線に面する部分から東南側の縁辺に廻る土塁である。高さは約20cmしかない。土塁の屈折部は出入口状になっている。6は本丸部分の南東部にあり、内側は窪んでいる。5は本丸の南西隅にありこれも内側が窪む。台場4は本丸曲輪を出た直後の尾根線上に尾根の下方、南を向いて半円形に造られている。2と3は一直線の尾根の南縁にある半円形台場である。1は4と同様、峯の末端にある半円形台場である。峠のすぐ東側には台場9・10の2基、そこから400m以上離れて台場11、さらに250mくらいで東向きの台場12がある。12から尾根は南東に曲がり、台場13・14と続く。13は東北に続く尾根線を向いている。田代東方からこの台場14までは政府軍が計画的に配置したものであろう。



第8図 駒鳴峠周辺 (1/5,000図)

### 三角点大畑周辺 (第9図)

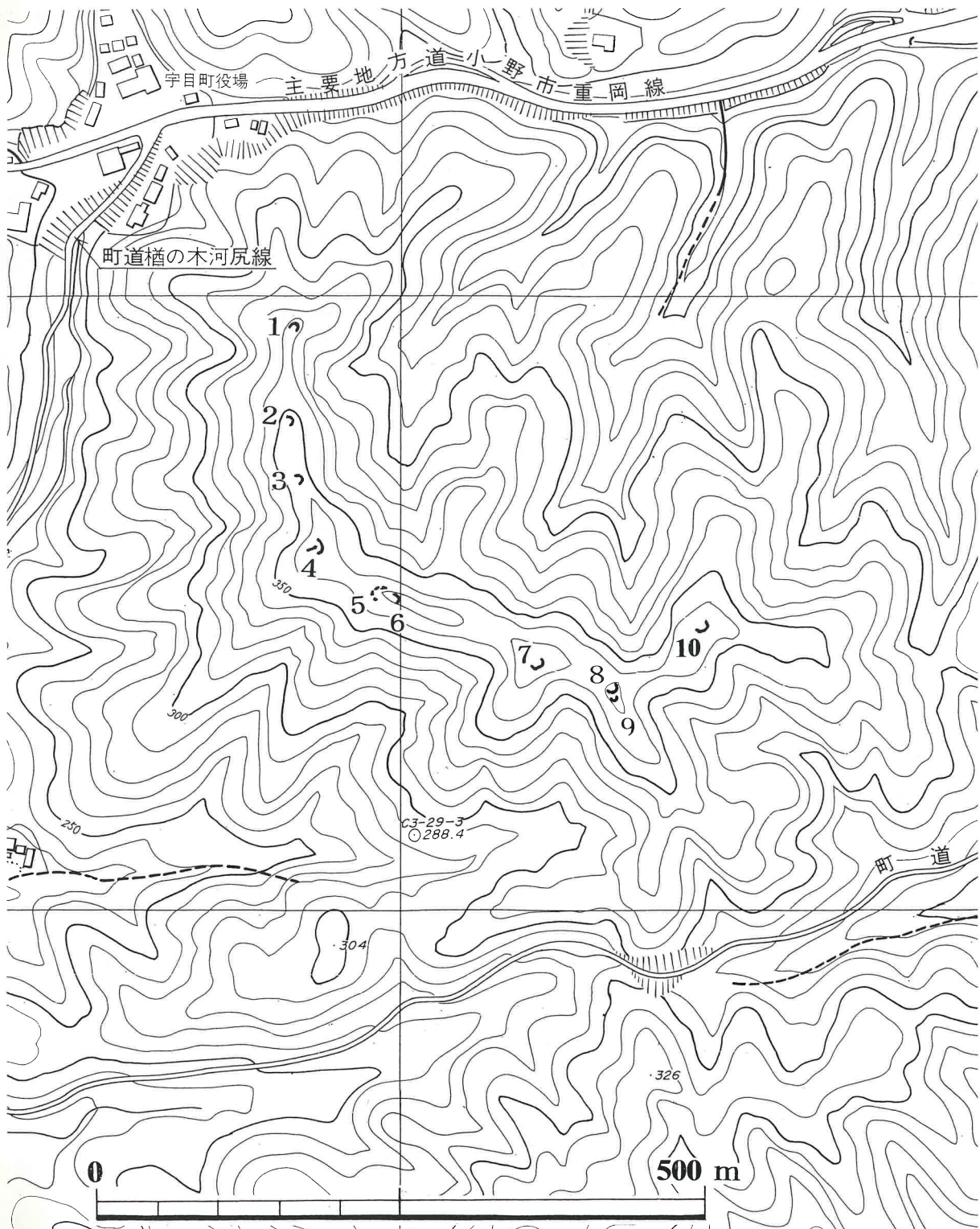
蔵小野の東北側背後に標高400mの三角点大畑がある。この付近は湾曲した尾根線をなし、ほぼ南北に延びて南に向かって尾根が飛び出し眺望がよい状態である。三角点の南側に西向きの台場が3基、北側に2基ある。これらは重岡中学校西側の薩軍台場群と連携して設けられたような配置状態である。



第9図 三角点大畑周辺 (1/5,000図)

#### 榎峠周辺 (第10図)

陸軍の記録「征西戦記稿」6月17日の記述に「正午臺兵右翼ノ二中隊、重岡ニ向テ發ス賊、之ヲ千束村ニ拒ク日暮ニ會フテ進ム能ハス乃チ榎峠ニ據リ工兵ヲ遣リ胸牆十七個ヲ本道並ニ左右ノ要所ニ築キ之ヲ守テ暁ヲ待ツ」とあるので、周辺各所の踏査を何度かに分けて行った。昨年度末、榎峠と地図上に表示のあるトンネルの真上・南北周辺を調べたが意外にも全く確認できなかった。今年度はトンネルから南に連続する東西に走る尾根線と、トンネルの南東側にある市道檜の木河尻線の東側山中を調べた。はじめの榎峠から続く尾根線には小型の半円形台場（小さすぎてやや疑問もある）1基以外発見できなかった。東側山中では10基を確認した。これらは北東に向かって弧状に屈曲した分布状態である。北西部の6基は主に北東を向き、南東部の4基は東から南を向いている。台場9も小さくて疑問がある。台場10から北に向かって道路まで踏査したが台場10より下では未発見であった。



第10図 榎峠東南側 (1/5,000図)

### 重岡周辺に分布する戦跡の分布状態

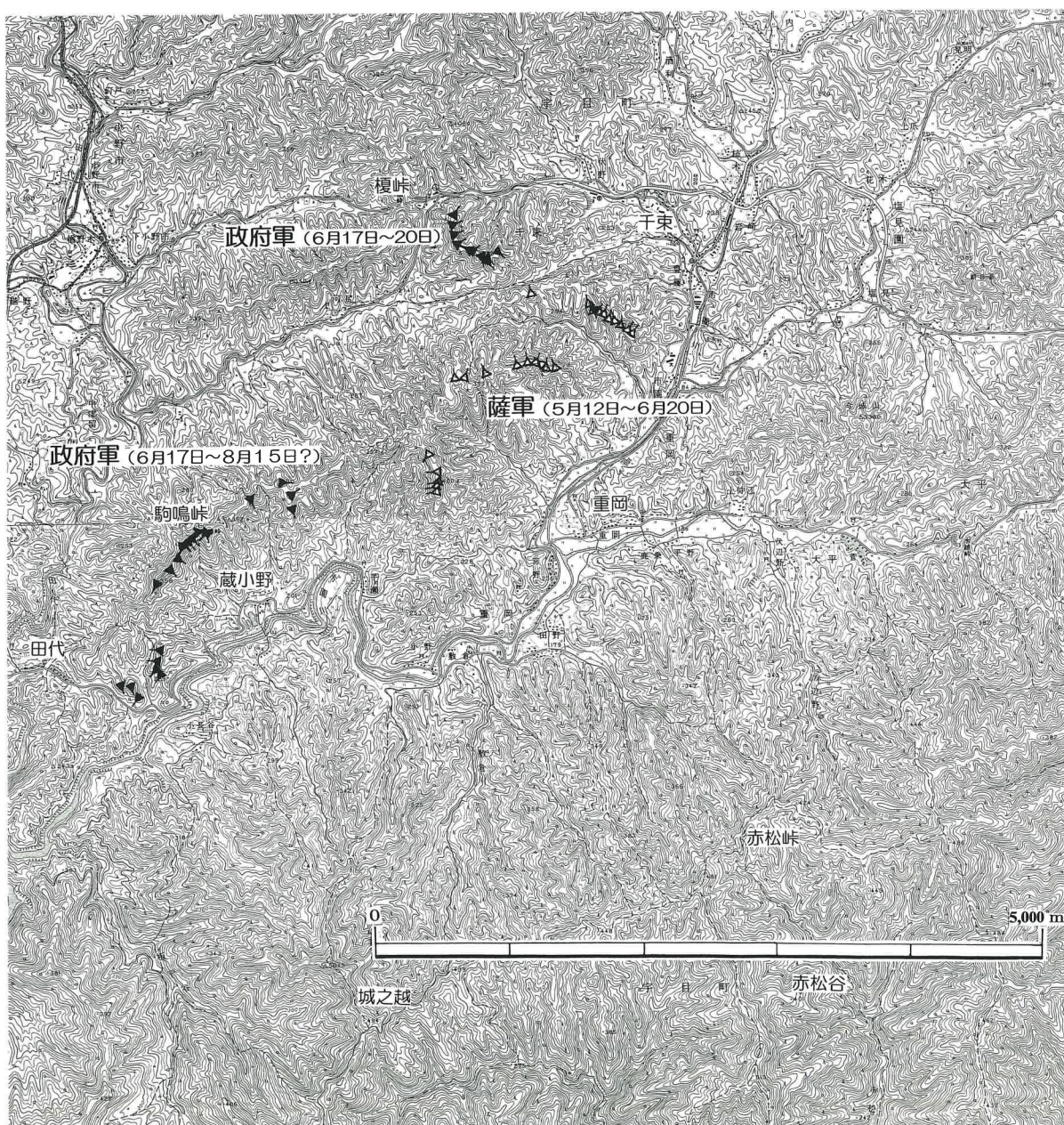
全体の分布状態を検討しておきたい。5月12日に重岡から大分県内に侵入した薩軍は、竹田・佐伯・三重・鶴崎・臼杵等を戦乱に巻き込んだ後、6月17日に三重と宇目境の三国峠・旗返峠で敗退し、榎峠を越えて千束・重岡に後退した。17日の「征西戦記稿」には、右翼ノ二中隊、重岡ニ向テ發ス賊、之ヲ千束村ニ拒ク日暮ニ會フテ進ム能ハス乃チ榎峠ニ據リ工兵ヲ遣リ胸牆十七個ヲ本道並ニ左右ノ要所ニ築キ之ヲ守テ曉ヲ待ツとある。分布図で榎峠の南東側に千束あるいは重岡の方を向いているのがこの時政府軍が造った十七個の一部であろう。今回の調査で初めて分かっ



たのは、重岡の北から西側を囲むように外側を向いた台場が並び、榎峠周辺の政府軍に対して薩軍も台場群を築いていた点である。記録には全く現れていない。その後、大分県内の薩軍は6月19日から21日にかけて重岡や旧直川村陸地を通して県外に一旦去った。駒鳴峠周辺の政府軍台場は8月中旬まで使われていた。

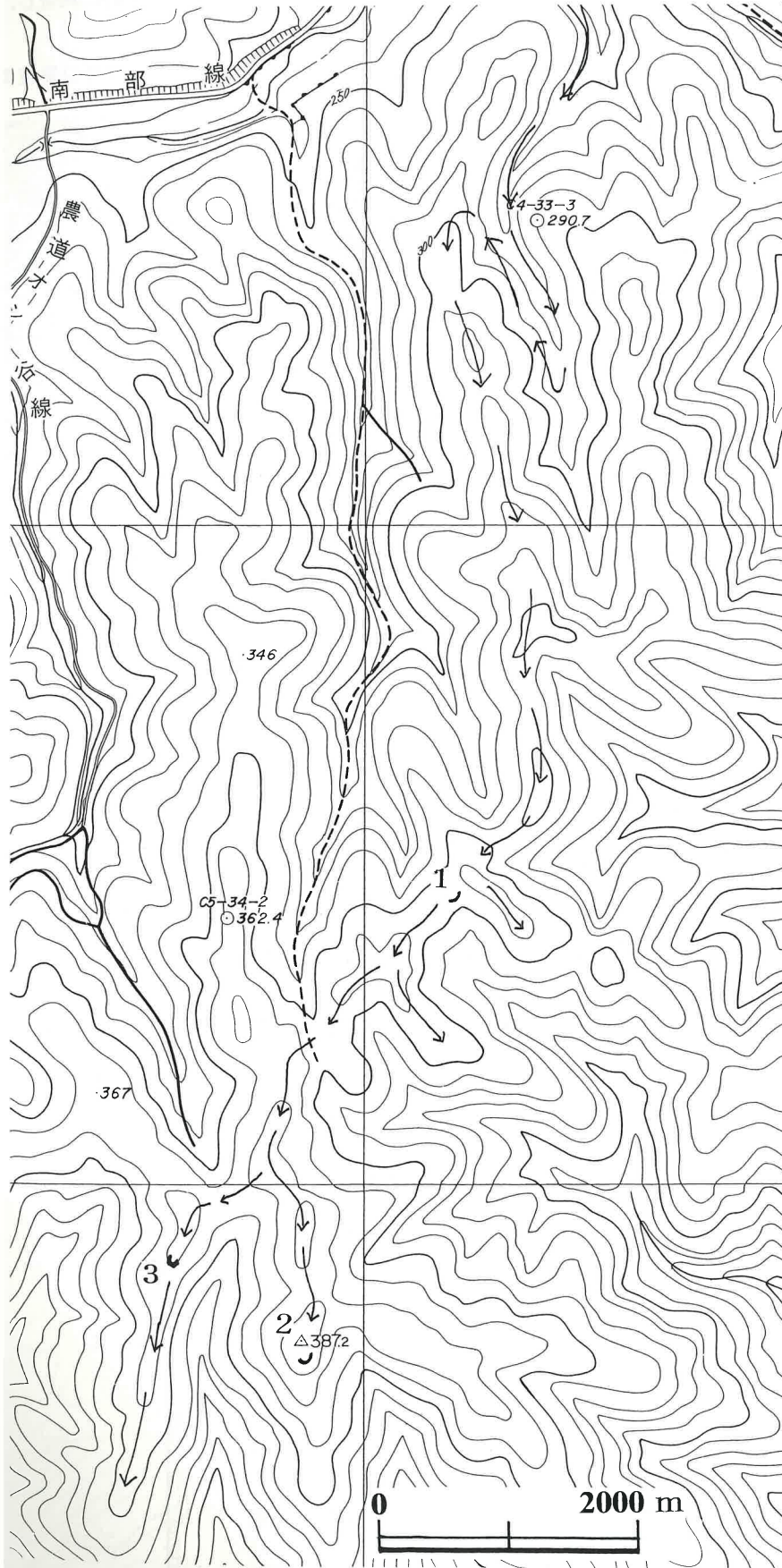


写真は駒鳴峠東側から南を見たもの。



第11図 重岡周辺の戦跡分布概念図 (1/5,000図)

大原西部（国道10号西側）（第12図）



第12図 大原西部（1/5,000図）

重岡の東方約4kmに位置する大原は県境尾根の麓にある集落で、宮崎県柚ケ内と県境尾根線伝いに山道が通じていた。現在は山道は廃れ、代わりに西側の谷筋に国道10号とJ R日豊本線が通過し、重岡駅が設置されている。県境地帯を警備する政府軍は、宇目西方の柳ヶ瀬・駒鳴峠・梓山・赤松峠・豆殻峠から大原を経て旧佐伯市方面まで連なっていた。

大原地域の分布調査は昨年度初めて国道10号の東側の県境尾根線を踏査しただけであり、西側はまったく手つかずであった。

踏査した範囲は水越峠と大原とを結ぶ路線の南側で、標高387mの三角点がある山の南北尾根である。確認した台場は3基である。相互に相当離れて存在し、すべて東方を警戒して設置された状態であった。

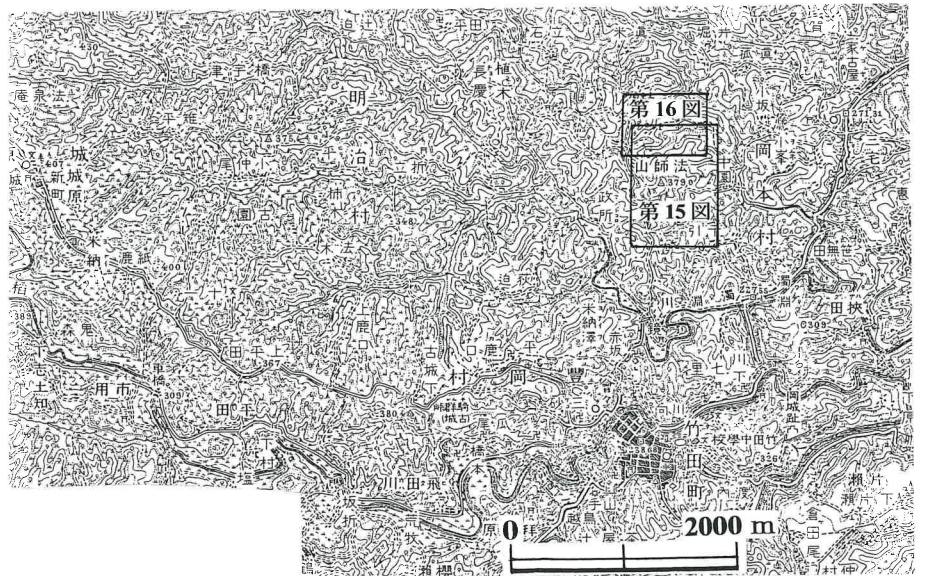
6月25日から7月16日まで県境尾根の大原越へには薩軍がいたので、当然それに備えたわけであろう。第18図は100年ほど前の地図だが、三角点の東北側の麓をとる波線の道路が記されている。東側の県境の大原越へとは別に、中ノ嶺方向からまっすぐ西に向かって来る尾根を下れば、波線の道路に繋がるので、破線道路の通行も警戒する必要があった。今回は破線の道路より東は未調査である。

### 3. 竹田市法師山

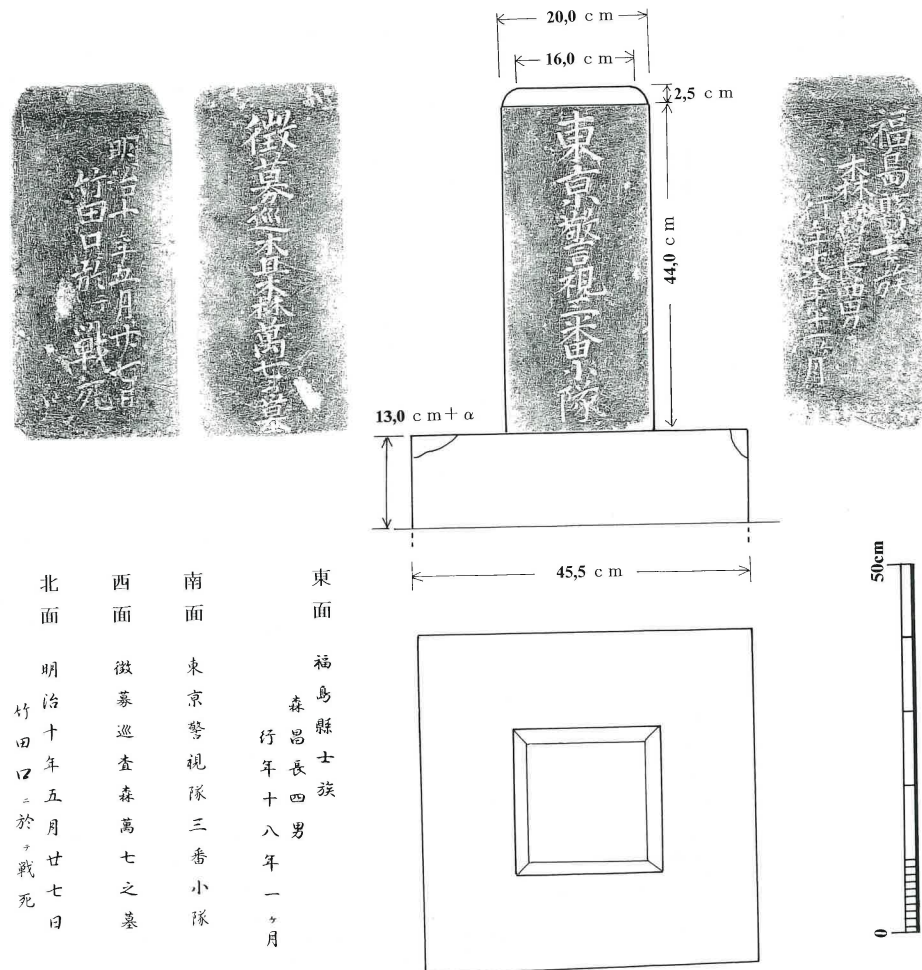
竹田市内の分布調査は藤島純高氏に案内して頂いて行った。市街地の北部・西部にあたる法師山を中心に調査し、中川神社周辺・岡城の西方の阿蔵周辺で関連地点の現況、伝承地を確認した。

法師山は「征西戦記稿」では宝珠山と呼ばれ、初め薩軍が守備していた。5月18日に東京を発した豊後口警視徴募隊七百余人が25日に攻撃して奪い、以後政府軍が占拠した。「征西戦記稿」を引用する。

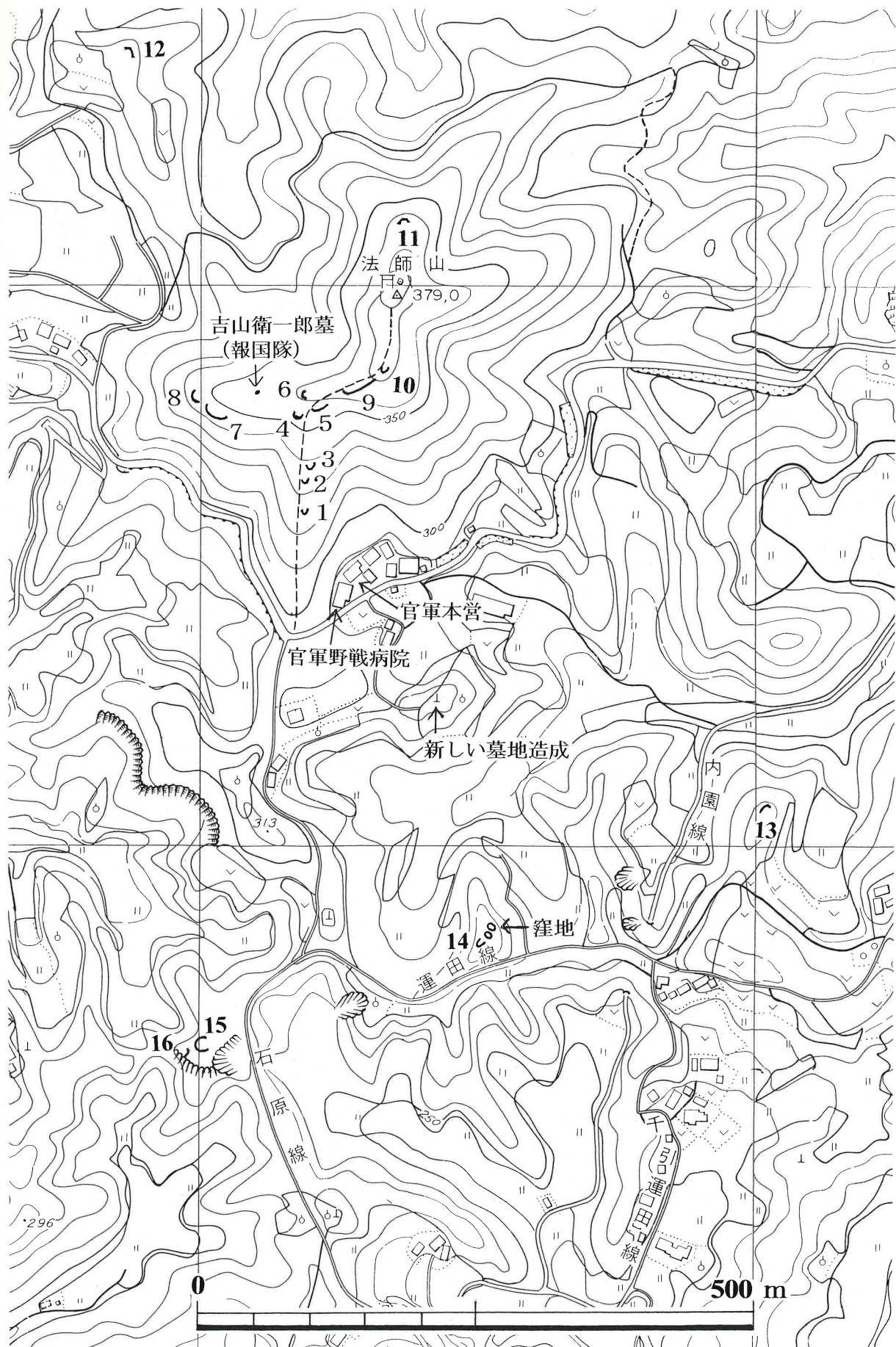
二十五日萩原警部、兵ヲ今市ニ整ヘ古無田ヲ經テ神堤ニ至リ間道本道ノ二軍ヲ分チ並ヒ進テ賊壘ヲ夾撃セシム間道ノ兵先ツ進ミ枝村ニ入ル時正ニ午後二時直チニ寶珠山ノ壘ヲ衝ク賊、險ニ據リ瞰射ス乃チ又我兵ヲ二分シ一ハ直線ニ進ミ一ハ迂回シ險ヲ攀チ山上ノ壘ニ薄リ激戦遂ニ之ヲ抜キ (略) 兵ヲ寶珠山ニ収メ哨線ヲ布ク



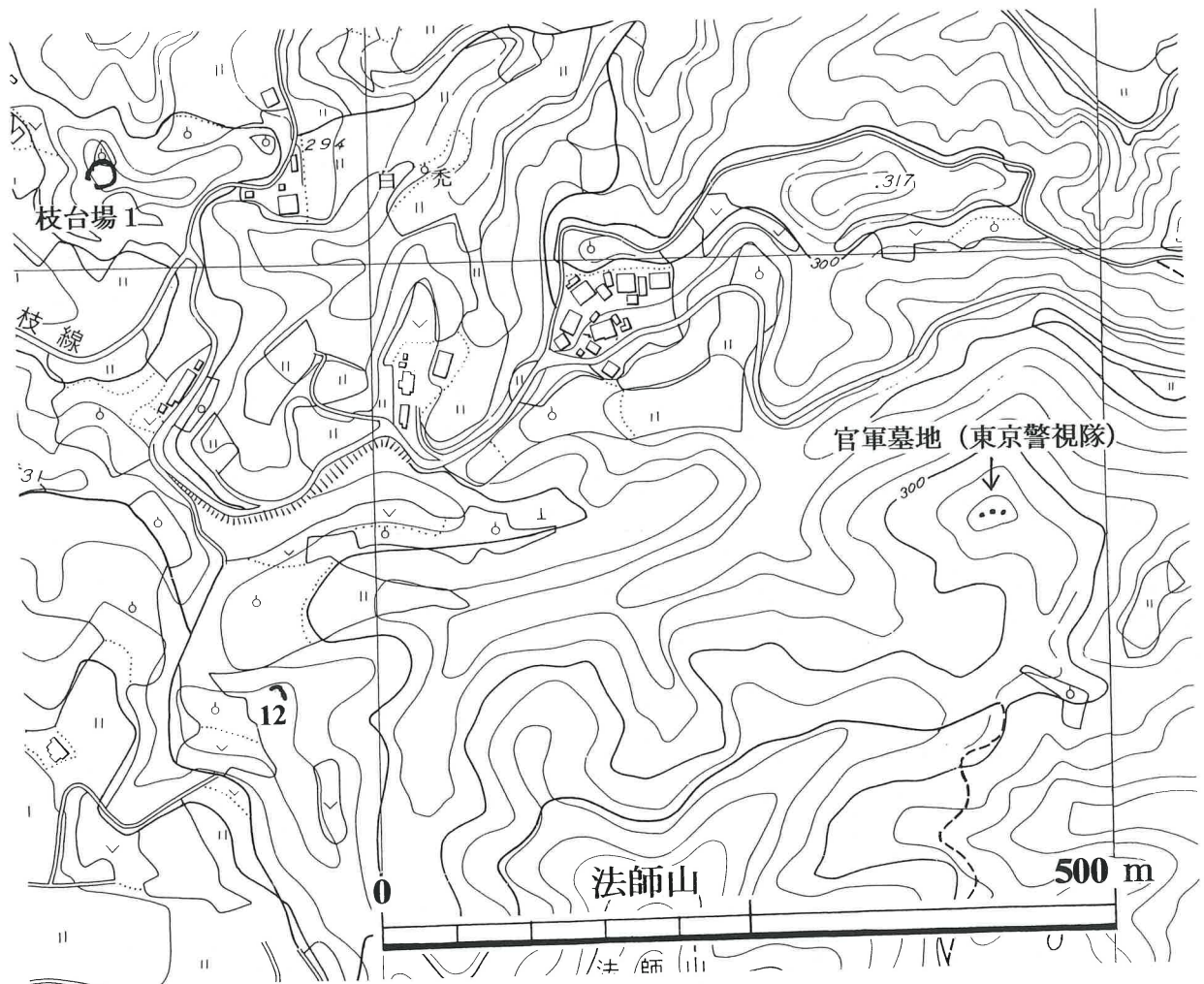
第13図 竹田市法師山 (1/50,000図)



第14図 東京警視三番小隊墓石実測図



第15図 法師山① (1/5,000図)

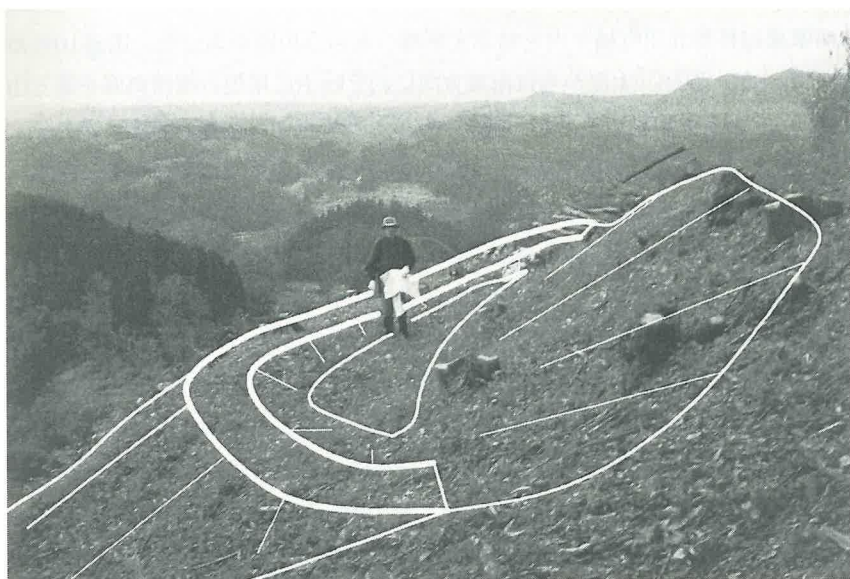


第16図 法師山② (1/5,000図)

法師山から東北側約600mに派生した尾根頂上部に官軍墓石3基があるというので案内していただき、東端の一基を図化した。3基とも5月27日に戦死した東京警視三番小隊のもので、東から森萬七（福島県）、日色衛三郎（千葉県）、茂田重暢（千葉県）とある。

法師山には11基の台場がある（第15図）。台場1～5は登山道の脇にあり、9は全長約40mと長い。台場11だけが北向きで、これが薩軍の台場だと思われる。頂上から北西に延びた尾根を通過する旧道があり、その外側に台場12が谷を見下ろすような位置にある。12は薩軍が造った疑いがある。山の南麓に官軍本営、官軍野戦病院だったと伝承されている民家がある。本営跡から350m～400m離れた南側の高台でも台場4基を確認した（13～16）。台場14は竹藪が繁茂し全体を把握しにくい、土塁部分や人工的窪地が入り組んでいる。これらも政府軍側のものだと思われる。法師山の北西側、枝村で1基台場を確認した。小高い丘の頂上にあり、大型である（枝台場1）。

警察部隊の公式記録「戦闘日日」によると法師山を攻撃したとき、「山上ノ賊壘ニ薄リ激戦遂ニ其數累ヲ抜ク」とあり、薩軍台場が一基だけだったとも思えない。周辺の分布状態をさらに調べて結論をだすべきだろう。また、警視隊は枝村には抵抗無く侵入しており、枝台場1は彼等がその後築いたものであろう。



法師山台場 7

(左奥は阿蘇外輪山、  
右は久住連山：藤島純高氏)



東京警視三番小隊墓地



法師山 (南から)

## 2 分布・測量調査 佐伯市宇目大字大平三本国有林1,084

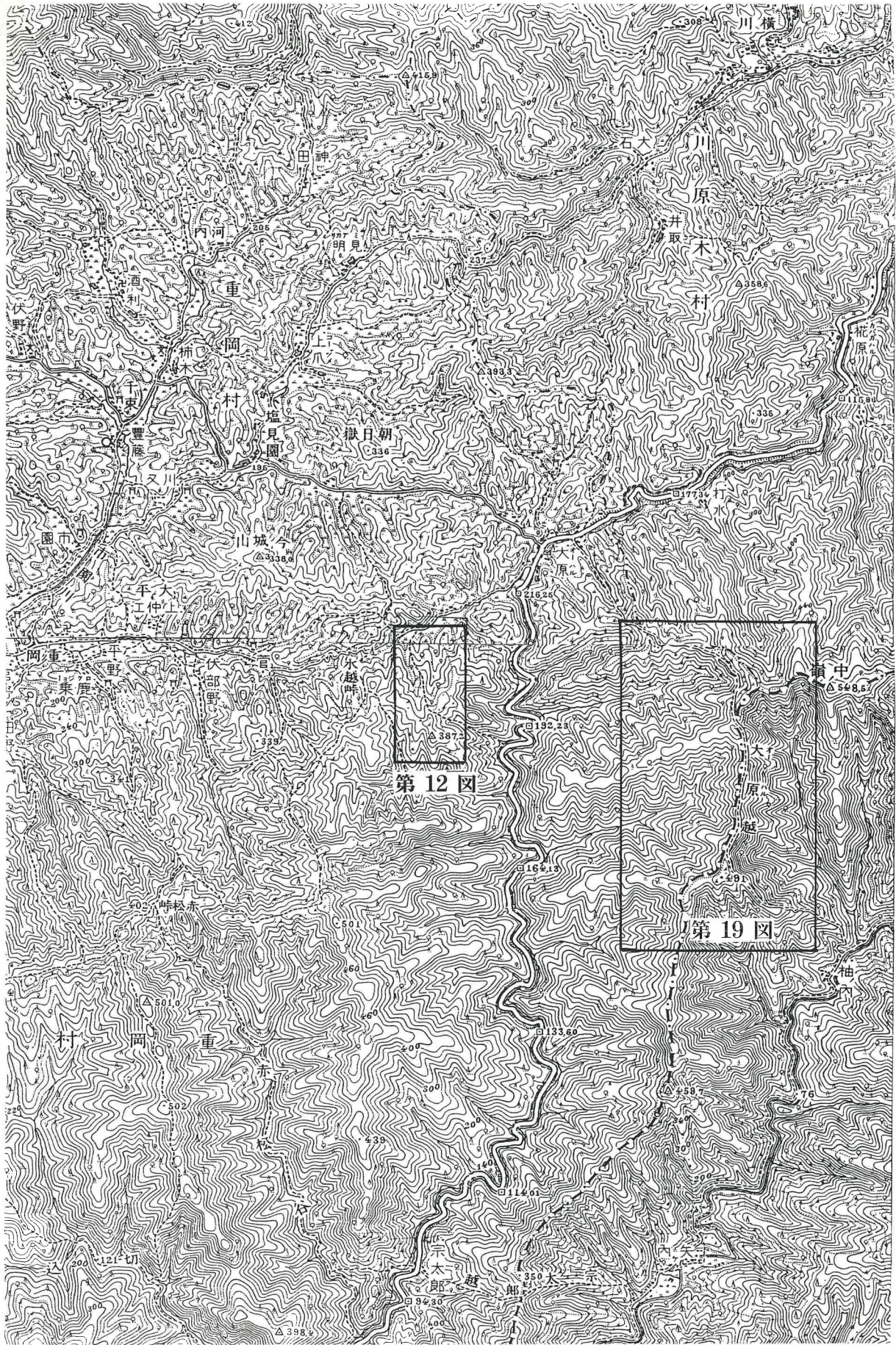
かつて、佐伯市宇目大字大原から宮崎県東臼杵郡北川町柚ケ内を結ぶ大原越へという山路があった。国道10号ができた明治35、36年までは重要な路線であった。現在、大原からは南東方向に約2km主に尾根の南西斜面を通る山路跡がある。途中の峠まで草を掻き分けながら旧道を通り、そこから尾根を登る。峠で旧道は南斜面の森に隠れてしまう。南東に尾根線を進んだ突き当たりの頂上はいわば三叉路である。斜面のきつい東側の豊後水道の方から来た尾根と南から緩やかな上りで来た尾根と大原からの尾根が一点に集まる。三叉路に台場がある。ここからの旧路線は南に進む。尾根の上を通ったり、峯を避けるように蛇行しながら約1.5km行くと、柚ケ内の方に行く下り尾根が現れる。大原越へは今は全く山林の中に埋没し草木に覆われ、場所によっては流失していることもあり、現地調査で通ったのは森林の中に埋没している古道ではなく、山仕事の人が偶に通る尾根線を利用した。

三叉路から南に約8km続く尾根は県境であり、その南部にあたる観音山・宗太郎越へ周辺・エゴオノ山周辺については70基の台場が存在する（「西南戦争之記録」第1号 西南戦争を記録する会編2002）。約8kmの尾根線の中央部分には椎葉山が存在する。椎葉山には薩軍の台場が5基あり、明治10年8月6日に北方から政府軍が攻撃を加え、敗退した戦跡である。県教育委員会は昨年度、椎葉山の戦跡を測量調査した。その際、政府軍側から発射したと考えられる四斤砲弾破片を数点発見した。その後昨年度末には椎葉山に続く北側の尾根を踏査し、星形台場を含む二十数基の台場を確認した。今回はそれらの位置を地図上に記録するとともに、椎葉山攻撃の拠点となり、四斤砲を設置していたと考えられる椎葉山から1km以上隔てて存在する政府軍の台場跡群を測量した。



第17図 多稜堡壘の位置 (○) -カシミール3D使用-

上図は東から見た鳥瞰図である。大原越へ・多稜堡壘群・椎葉山がある県境尾根線の手前が宮崎県、向こうが大分県である。政府軍が大原越へ路線から薩軍を追い出し、その南端である柚ケ内の山上に多稜堡壘群を築いたのが7月16日で、当時椎葉山以南には薩軍が台場を多数築いていた。8月6日、政府軍が椎葉山を攻撃したが、大敗した。昨年度の調査では、椎葉山において政府軍が発射した四斤砲弾片を発見した。多稜堡壘群から砲撃したのであろう。



第18図 佐伯市宇目大原周辺 1/50,000図 (明治34年)



## 戦跡分布状態

第19図には佐伯市宇目の東縁を南北に走る県境尾根及び周辺の台場の位置・形態を記入している。今後発見する台場の出現を考慮し、①宇目東縁の県境南北尾根・②県境屈折部から大原に向かう尾根・③県境屈折部から東に向かう尾根のそれぞれに1から番号を付すことにする。

①には27基の台場が存在する。台場1は南北に延びた峯の北端に位置し、②と③方向を睨んで設置されている。先に三叉路と呼んだ地点である。台場2は10m程度背後にあり、隠れる場所のように南に開いた窪みである。台場3は尾根中央よりも微妙に東寄りに位置する。ここから下りとなり再び登り着いたところに台場4が北を向いて造られている。通路のため土塁部分はほとんど消滅しているが、南部を削り出した痕跡がある。台場1から4は南北方向の県境尾根の北端部に分布し西北の大原方面の尾根と東から来る尾根を警戒して設置されたようである。

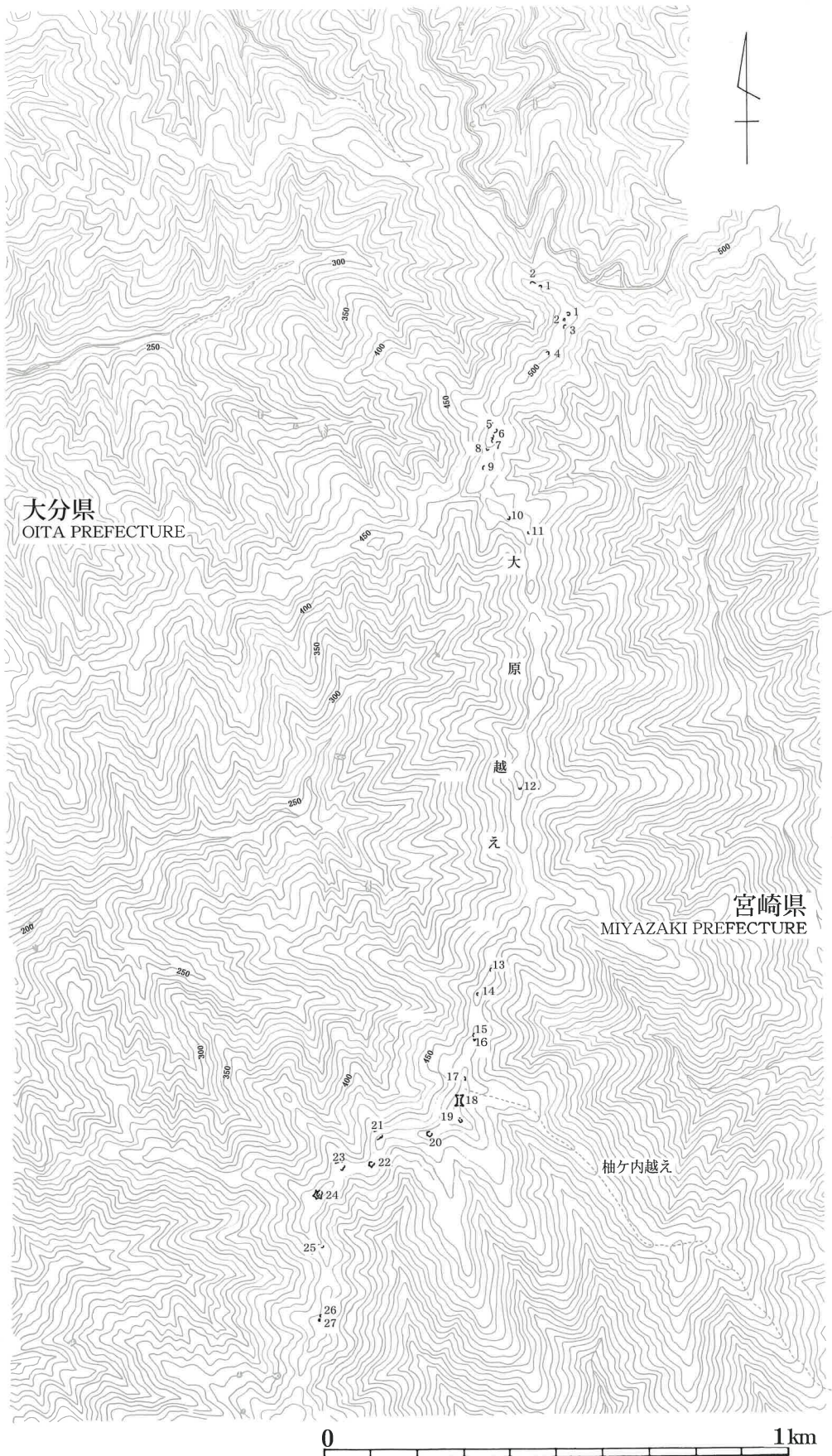
そこから約200m先に台場5がある。ここは地図に細かな等高線がないため分からないが小さな峯の頂上及びその南部である。5が頂上で、6・7の土塁部分は下がってゆく通路となっている。5と6は宮崎県方向を向いて築造され、6と7は連続している。7は西側向きに造られている。下り斜面の途中で土塁部分の不明瞭な8があり、8と9の間には堀切り状の道路が尾根を切断して北東から南西に走った後、道は尾根の東側斜面を通過する。台場9は大きな土塁部分だけが西向きに盛り上がり、内側北部に文化三年銘の石造仏が建つ。9の位置は平坦な峯の北部であり、頂上部である南部に明治33年の石柱がある。……宇堀切峯と刻まれている。9から北西は下の方に緩やかな平坦面が続く。



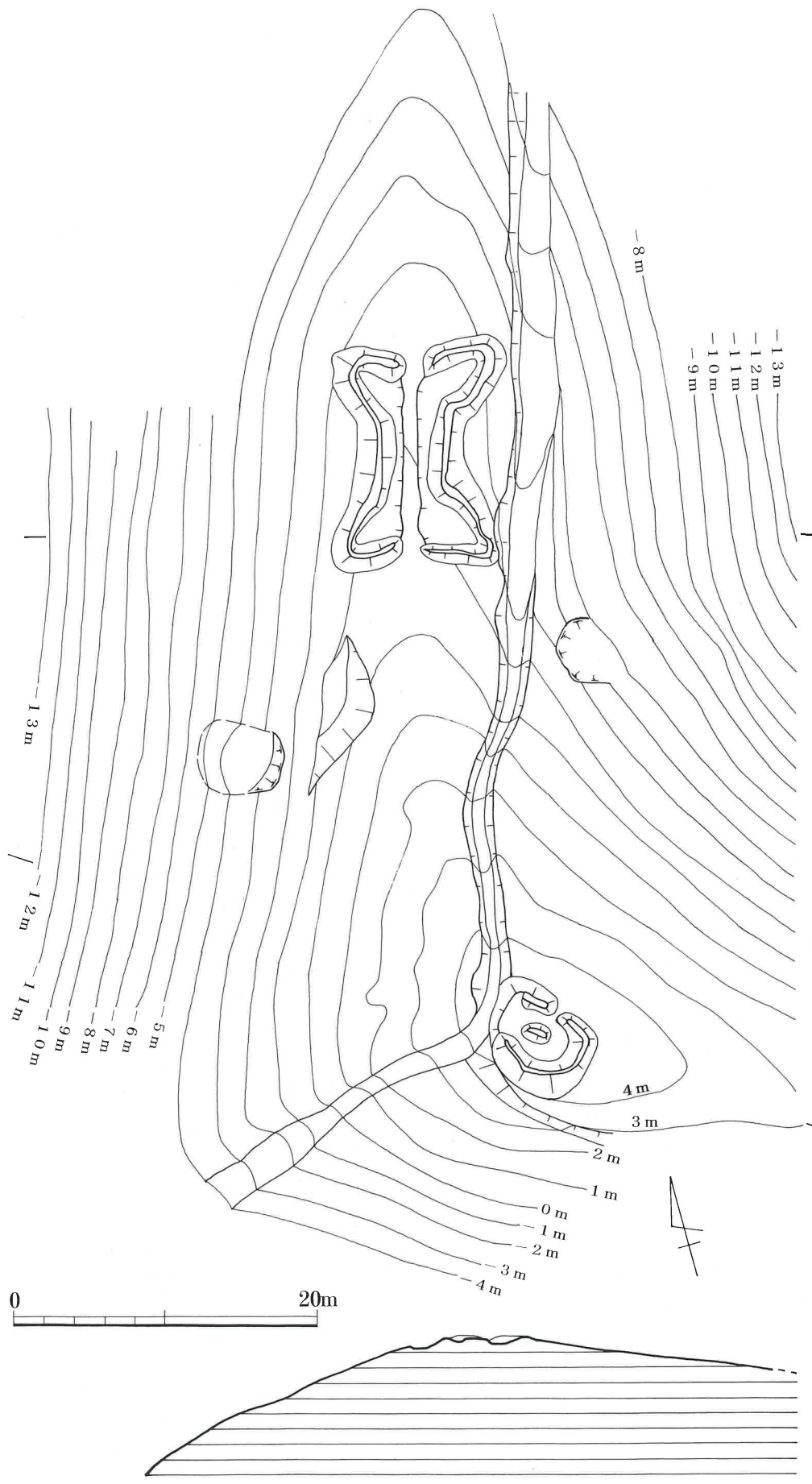
(カシミール3 D)

頂上端部に台場10がある。11は西向きである。そこから約550mの間には台場がない。台場5から6が分布する付近には西側から南西方向に大きな尾根が派生している。この尾根を通れば、現在西側を南北に走る国道10号のさらに西側の山地を守備していた政府軍との連絡が容易である。台場12は峯の南端部に位置し南向きに造られている。この部分の東に小さい尾根が派生しているのも設置の理由であろう。台場12の南約400mには台場の痕跡はない。台場12からは一旦下がった後に登りとなり、比較的上面が広がった場所の西縁に台場が2基ある。台場13は北側に西向きにある。台場14は西方向に派生した尾根を警戒したものである。14のそばの南側に痕跡かと思われるものがある。南から東を向いているようにも見えるが、自然の影響か。少し下がってまた登ると台場15が西を向いてある。

台場16は東向きの通常の半円形台場である。台場16～



第19図 大原越への台場分布図



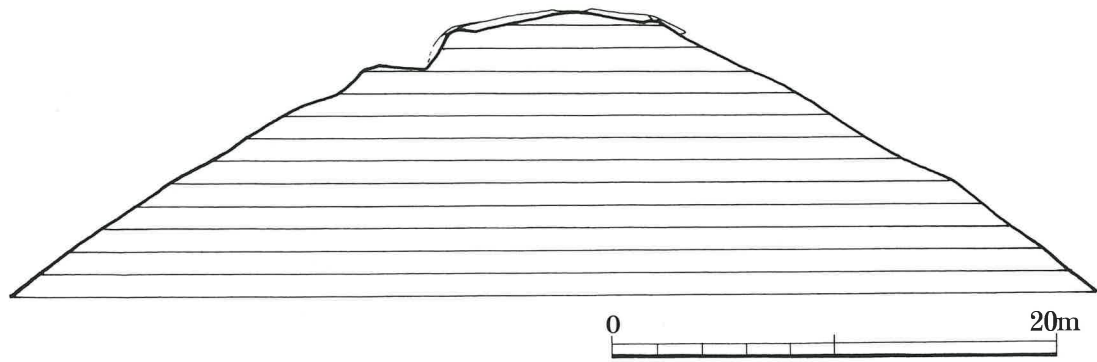
25の向かう方向は東から南であり、北から南までの距離は約550mある。

台場17から先は19まで緩やかな登りでその間に凹凸はない。地図の表記では台場17の南に柚ヶ内への道があることになっているが、頂上周辺に明確な道路跡があるわけではない。17は通常の台場で、横長の円形である。尾根の東縁にある。

台場18～24は地形測量したので、個別に説明する。台場25は24の先178mほどにある半円形台場で、尾根線の下方向いている。127mくらい先に西側を向いた台場26、並んで南側に27がある。なお、図の範囲外であるが27の南406mには南向きの台場がある。

測量した台場18～24の等高線は台場18の南側にある杭の上を仮に0mとして統一的に図化し、台場25は単独に中央部にあったコンクリート杭を0mとして図化した。

第20図 18号台場(上)・19号台場(下)実測図



第21図 18号台場南部横断面（北から南を見る）

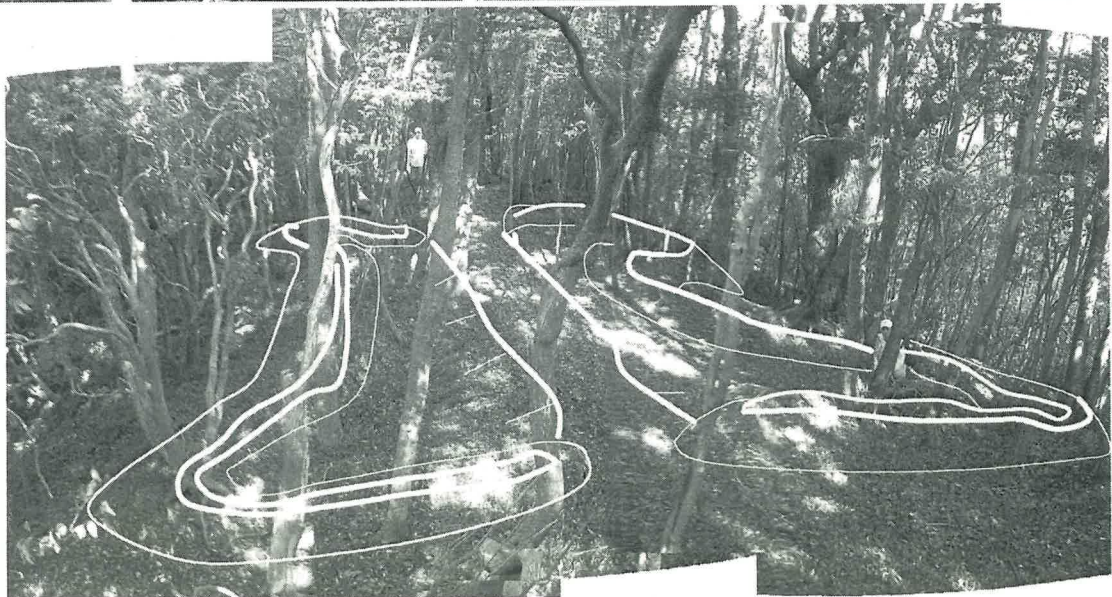
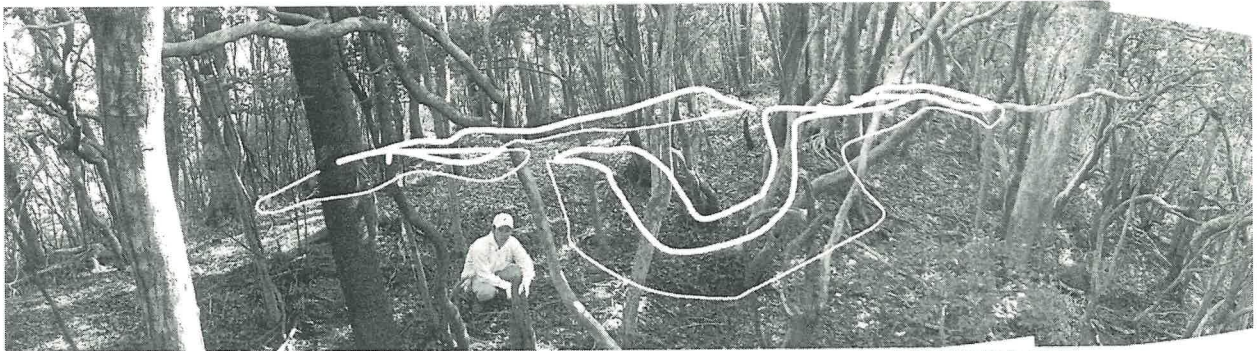
### 18号台場（第20図）

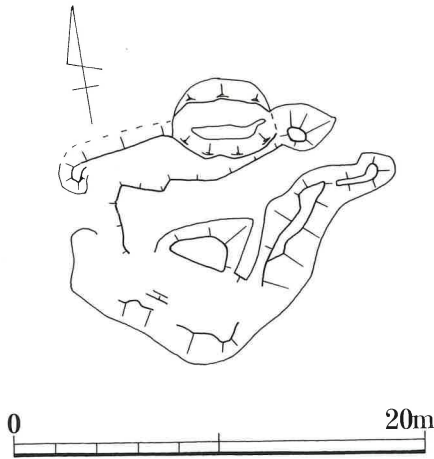
17号の南端から39mで18号台場がある。これは四稜の外形で、尾根線中央部は通路らしく、両側にそれぞれ二ヶ所突出部がある。突出部内部が一番深いが、土塁内側は自然地形を削った状態が残る。全長15.4m、最大幅11.6mである。

### 19号台場（第20図）

18号から少し登ると南東に行き止まりの尾根があり、その最上部に19号が位置する。「U」の字形をなす土塁の東部には一ヶ所空間がある。内側は土塁に沿って窪み、中央部を掘り残している。

大原越へ多稜堡壘（18号台場一上の写真は北から、下は南から）

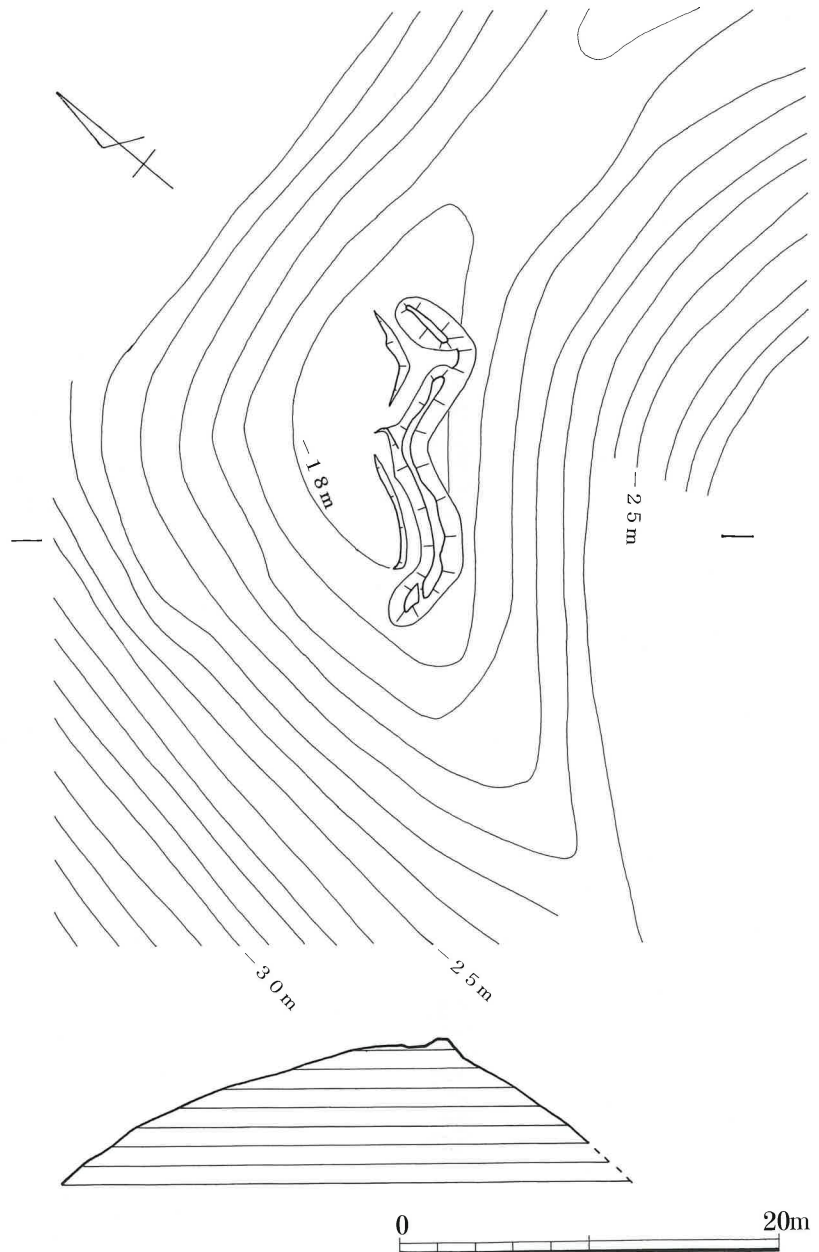




第22図 20号台場実測図

**21号台場 (第23図)**  
 20号台場から南にほんの少しの傾斜で下りが続き、短い登りとなった上面の東縁に21号台場がある。20号台場との距離は46mである。

21号台場は片側だけに土塁を廻らし、内側を掘り窪めている。土塁部平面形は「3」の字形だが、よく見ると北部は直角に屈折、突出しており、先端部はどうした訳か内側と同じ高さであり、土塁部分の高みが存在しない。後世に踏みならされた可能性がある。南部は円く張り出している。南部土塁の末端の方が二段になっているのは、現在、22号台場の方に行く際、土塁の上を踏んで行くためである。台場の東部からは東側斜面を見渡すことができる。21号台場の規模は全長17.5m、最大幅5.5mである。



第23図 21号台場実測図

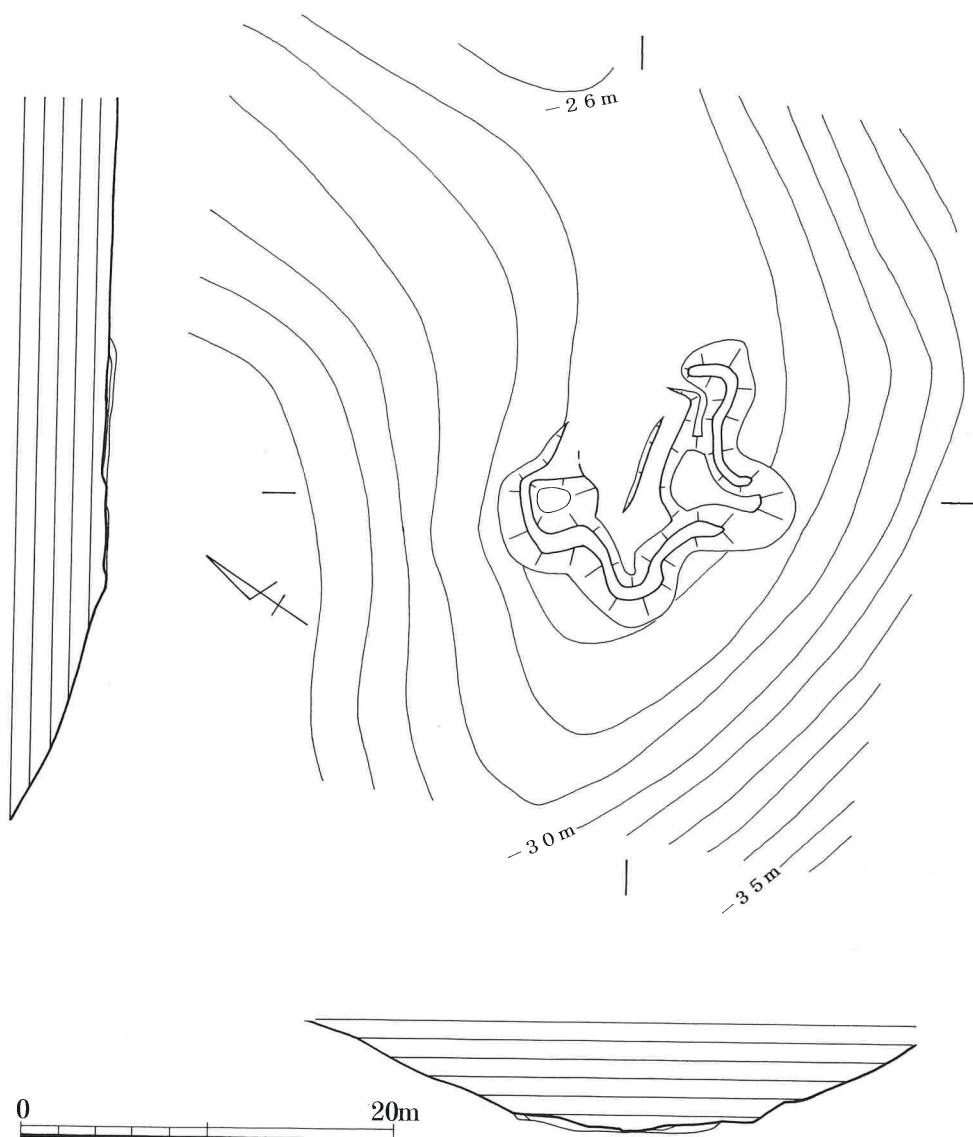
## 22号台場 (第24図)

21号台場から緩やかに下るとやや平坦な場所となり、その先端部に22号台場がある。21号台場との距離は57mである。この付近は尾根線が屈曲し、西側の斜面は緩やかで、東側は比較的急斜面である。

22号台場は出入り口である北東部は開いた形で何もなく、他の面に土塁で囲んだ四つの突出部を配置した花弁状の台場である。全長16.1m、尾根に沿った場所の幅は15.5mである。中心部は一段北側を削り、その反対側は自然地形を残している。

突出部分を時計回りに図の右上から1・2・3・4とすると、突出部1は内側の窪地に尾根の上方から入れるようになっている。突出部2は内側の窪地がやや深く、完結しているが先端部の土塁部分は高まりがない。突出部3は南向きで、内側の窪地は自然地形との区別ができない。突出部4は南西部だけ土塁部分の高さがあるが、北部は内側の窪みとあまり高低差が認められない。

突出部1・3が次の23号台場の南部突出部に似た形状であるのに対し、突出部4は幅が広く異なっている。



第24図 22号台場実測図

### 23号台場 (第25図)

22号台場から上面のやや広い尾根を緩やかに下った95m先にある次の小さな高みの南端部に23号台場がある。

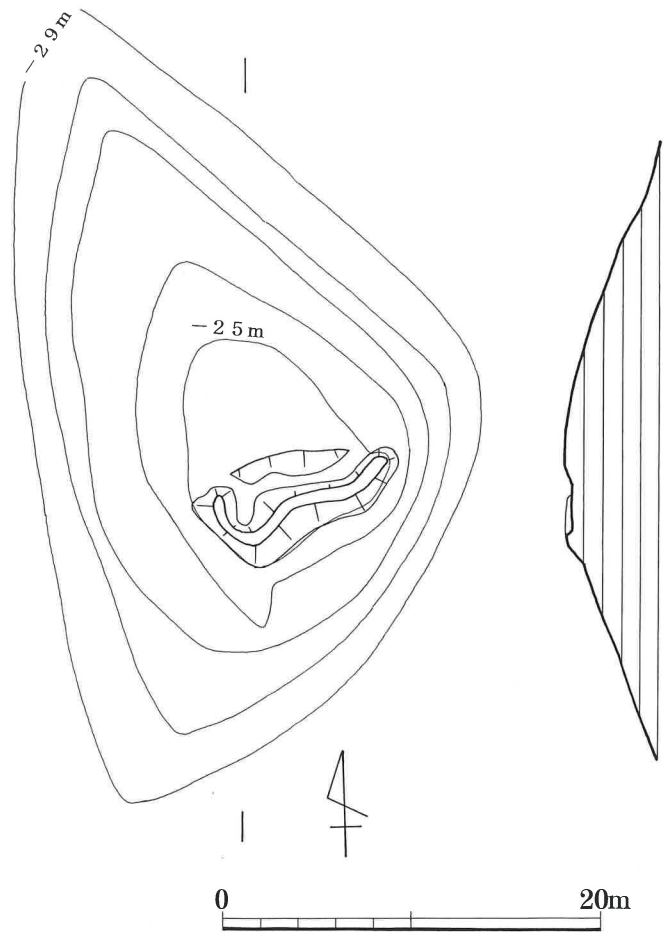
地形実測図では図の上方に尾根が延びているが、22号からの通路は等高線が図の右側に突出した部分である。次の24号台場へは現在、半円形突出部を踏んで行くようになっている。

この峯の上面は三角形で、上面の東南縁に「3」の字形の土塁を廻らした台場がある。台場西部は半円形に突出し、東部は緩やかに屈曲している。内側は自然地形を削って掘り窪めている。

台場の背後、北西部は伐り開かれているため眺望がきき、通称三本谷と呼ばれた尾根と谷の向こうに豆殻峠、駒鳴砦跡、板戸山、傾山等が見える。梓山は左側の森に阻まれて見えない。台場背後の北側尾根線に台場の様な大きな風倒木痕ができています。

23号台場の規模は全長11.2m、最大幅5.6mである。

次の24号台場には南側へ尾根を少し下ると次第にだらだらとした上り坂となり、平坦面の端に24号がある。相互の距離は95mである。



第25図 23号台場実測図

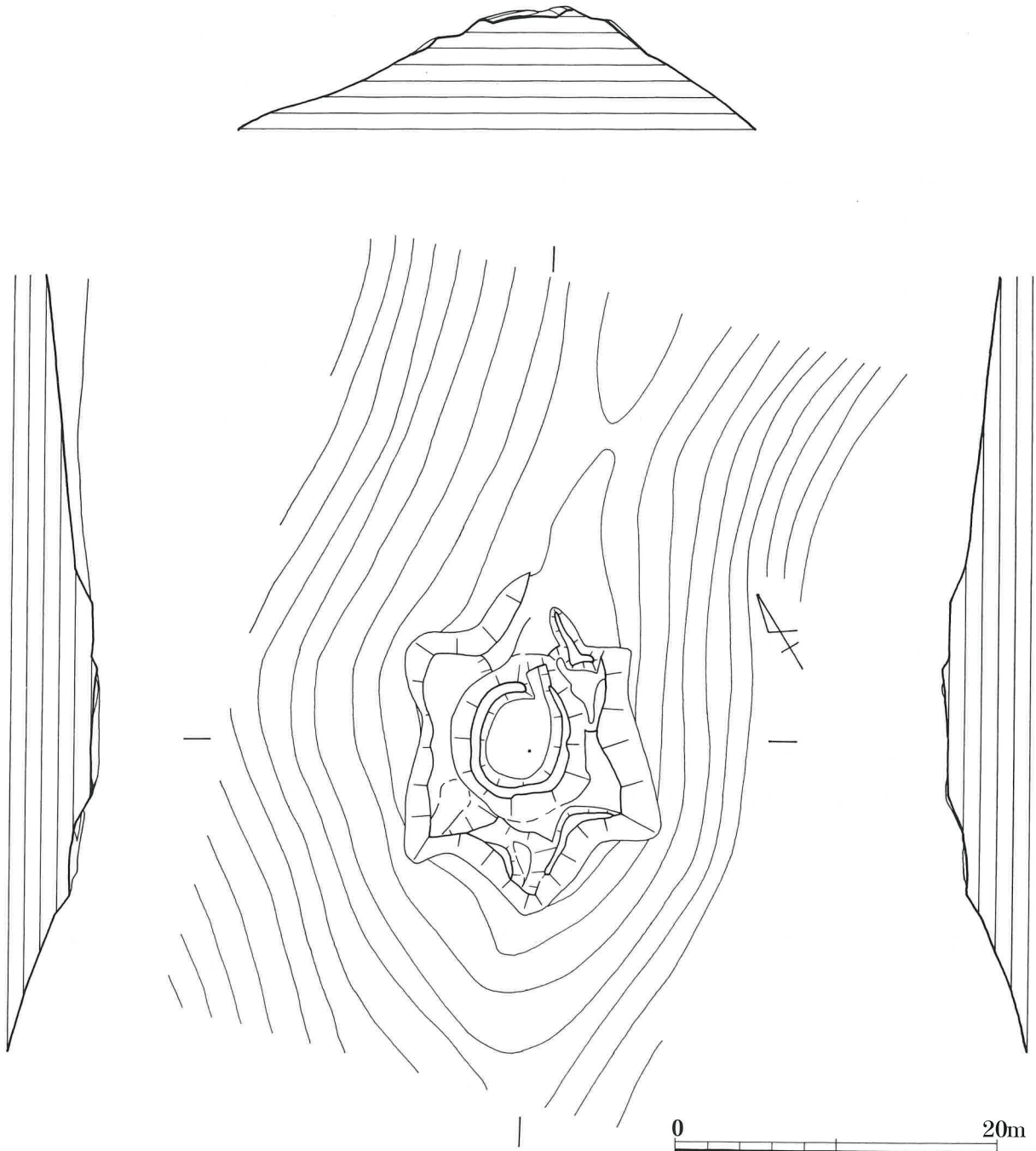


24号台場 (北から)

### 24号台場 (第26図)

北側の23号台場からは95m離れているが、23号からは一旦下がった後、少しずつ上りとなって上面の高低差が少ない尾根線に達する。24号台場はその行き止まり、末端に位置し、台場の南端から急に下り坂となる。規模は南北の長軸が19.8m、東西の最大幅が16.0mで、尾根の上面から東西の斜面にまではみ出て築造されている。

中央には北側が切れた円形の土塁が廻る。円形土塁部分は外側の多稜部分よりも一段高くなっている。内部床面の規模は南北5.0m、東西4.0mである。内部には腐植土が堆積している。床面は南に向かって若干傾斜している。一段下位の周辺部は平面形が星形をなし、一見、6カ所の突出部をもつように見えるが、北側のものは出入口である。下位は正六角形ではなく、四稜形の南北の面に凸角部を付設した形である。下位の出入口部東部と南部から南東部の外縁部には土塁が残っている。南側突出部先端に土塁がないのは現在、通路として踏み均らされているためである。南西側の突出部は東部がやや高く、凸角部は窪み気味である。



第26図 24号台場実測図



## ま と め

### 分布調査結果について

昨年度は佐伯市宇目所在の椎葉山の測量調査と大分市九六位山、豊後大野市三重町三国峠付近、佐伯市蒲江から同市直川までと宇目東部の県境尾根において戦跡の分布調査を行った。大分市九六位山では政府軍のものと思われる台場跡を確認したが、これは大分市内では初めての発見であった。三重町三国峠付近では反政府軍（薩軍）の造った周知の台場が三基知られていたが、この北西一帯の山で政府軍の台場三基を確認した。また、県境尾根線では台場の分布状態に極端な地域差があることが判明した。具体的には佐伯市蒲江の豊後水道沿岸部から旧佐伯市にかけては分布は少なく、直川から宇目までに特に集中している。

今年度は臼杵市姫岳、竹田市法師山一帯、佐伯市宇目で分布調査を実施し、姫岳以外では多数の台場を確認した。姫岳は記録によれば政府軍が露營し、翌日臼杵市街を背後から攻撃したことになっているので、今回はもう少し東部の鎮南山寄りを踏査したい。法師山は薩軍が守備した点を強調されてきたが、分布図を作成して検討したところ台場のほとんどはその後占拠した政府軍が造ったものらしく、実際に分布調査することの有効性が明らかとなった。宇目では重岡集落の西側の山地で多数の台場を確認した。駒鳴峠周辺に戦跡が存在することは記録から想定していたが、重岡中学校西側一帯に弧状に分布する一群の存在は予想外だった。分布状態から薩軍のものと思われる。台場を築いたことや戦闘があったことは記録にまったく現れない場所である。このことは、政府軍が台場を多数造ったと記録にある榎峠に台場がなく、榎峠とは谷を隔てた南東側の山地に政府軍が造ったらしい10基の台場が存在したことと類似している。当時の記録を過信すべきではなく、分布調査によって記録を補わなければならない。

### 大原越への多稜堡壘について

戦争当時のこの付近の状況から現地に残る台場が政府軍、薩軍のどちら側に属すのかみておきたい。5月12日に宇目の重岡から大分県内に侵入した薩軍は、竹田・三重・鶴崎・臼杵等で政府軍と戦闘を交えた後、6月19日から21日にかけて重岡や旧直川村陸地峠を通して宮崎県に退却した。政府軍は直ちに県境地帯に繰り込み、旧宇目町の梓峠・水ヶ谷・黒土峠・城之越・赤松峠・豆殻峠・大原峠等に警備線を設けている。大原峠が具体的に大原のどこを指すのかは不明である。21日、「陸地峠ノ哨兵、賊ノ斥候ニ遇ヒ戦フヲ須臾ニシテ賊退ク」（征西戦記稿卷四十七）ということから、21日には陸地峠の守備についていたのは分かる。6月24日の乃木大将所蔵『西南戦争従軍日誌第十四聯隊第二大隊』下関文書館1983 を引用する。

第一中隊八午前第三時第一小隊大石村ヲ発シ大原峠へ繰込ム暁天ヨリ伍長古賀勝平ヲ長トシ日向国柚ケ内村及ヒ矢カ内村へ斥候ヲ出ス賊我斥候ヲ追撃シツ、柚ケ内村ニ来ル此日黎明ヨリ重岡方面戦アリ亦陸地村辺ヘモ賊襲アリ依テハ三本通りノ警備緊要ナルニ付兵員増加アラン事ヲ仁田原本部ニ請フ

第二大隊は大原峠という所におり、宮崎県側の柚ケ内に向けて偵察部隊を派遣した。大原越への県境尾根を経由したことが分かる。ところ、薩軍の反撃を受け退却した。しかし大原峠の位置が不明で、県境尾根に台場を築いていたかどうかはまだ不明である。翌25日、大原越への東約3kmにあたる旧直川村の県境陸地峠を守備する政府軍を東方から迂回した薩軍が追い払っている。この日の第二大隊日誌を引用する。

第一中隊八午前第五時頃陸地峠賊襲ヲ受け我左翼ニ連絡スル所ノ諸隊悉ク退線スルヲ以テ斥候ヲ出シテ探ラシムルニ賊仁田原街道ヲ要扼シタリト云依テ第一中隊孤軍トナリ背後ヲ断レントスル恐レアルヲ以テ一旦大原村ニ引揚仁田原道ニ兵ヲ配布シ更ニ斥候ヲ出シテ捜究セシニ賊一時街道ヲ載扼シタルモ退テ陸地峠ヲ扼守シタリト云茲ニ於テ中隊ヲ二分シ旧線ニ向テ左右ノ山頂ヲ歴リ進行スル事八九丁ノ處ニ到ル賊已ニ大原峠ニ在リ猶数十名大原村ヲ襲ハントスルニ遇フ則チ銃鎗ヲ嵌着シ呐喊急進シテ之レヲ逐フ賊走テ大原峠ニ退キ劇シク拒射ス尚之レヲ冒凌シ先キニ見認タル要区ヲ進取シテ戦フ干時午前第十時ナリ午後第四時ニ至テ戦終ル尔后此地ニ胸壁ヲ設ケ日夜警射ヲ絶タス狙撃ヲナサシム且徹夜燎火ヲ盛ニス

先にこの付近の尾根線を①宇目東縁の県境南北尾根・②県境屈折部から大原に向かう尾根・③県境屈折部から東に向かう尾根に区別したが、史料を台場の分布状態によって解釈すれば、我左翼二連絡スル所ノ諸隊悉ク退線したのは③地域であり、第一中隊孤軍トナリ背后ヲ断レントスル恐レアルのは①の尾根である。賊走テ大原峠ニ退キ劇シク拒射したのは②の頂上付近と①の北端部であろう。大分県側を向いた台場の分布状況から判断して、大原峠とは②の頂上付近と①の北半分のことであろう。したがって、県境南北尾根の北部にある台場1～4や西側の大分県を向いた台場7・9・11・13～15・26・27は薩軍が6月25日から設置したものと考えられる。台場5・6・8・10・12などの南や東を向いた台場は政府軍がこれ以前に築いたのであろう。

この付近の戦況は7月16日に変化する。③の東に向かう県境尾根は陸地峠はじめ悉く政府軍が奪回し、薩軍は宮崎県内と①の県境南北尾根の中央以南に退いた。16日の乃木大隊の日記を引用する。

第二中隊八陸地峠ノ賊拋崩シ但之レヲ攻撃スル者ハ各部隊ヨリ拔出シテ編組スル処ノ若テ士卒ノ其功ヲ奏スル者タリト云フ其賊拋ノ崩ルハヤ此隣ノ賊皆動揺ス其機ニ乗シ中田少尉試補半隊ヲ引卒シ杭内峠ヲ衝ク賊狼狽ス茲ニ於テ藤井大尉部下ヲ指揮シ相尋テ進ミ卒ニ杭内峠ヲ略ス尚進テ柚ケ内村ニ至ル然レトモ該地ハ防禦ニ便ナラサルヲ以テ柚ケ内山ニ退キ警備スヘキノ命アリ数壘ヲ築キ之レヲ守ル

柚ケ内山ニ退キ警備スヘキノ命アリ数壘ヲ築キ之レヲ守ル、に出てくる柚ケ内山というのは柚ケ内越への頂上、つまり星形台場群がある山であろう。この日の「征西戦記稿」を引用する。

彼レ狼狽兵器ヲ棄テ走ル追テ柚ケ内村ノ山頂ニ至リ第一ノ守線ヲ設ケ陸地峠ノ第一線（ト）連絡ス時既ニ午後三時ナリ是ニ於テ陸地額返ノ險皆我有ニ歸ス工兵半小隊直チニ胸壁二十三個ヲ第一線ニ築キ鹿柴ヲ植工守備ヲ嚴ニス

柚ケ内山に星形台場群を築いたのが工兵隊であるという具体的な記述が見られるのである。台場5・6・8は東の宮崎県側と尾根線の南方を向いており、政府軍が造ったものであろう。逆に7・9・11は西を向いている。台場9の西には南西に延びた大きな尾根線があり、ここを伝ってくる政府軍を警戒して薩軍が造ったものであろう。柚ケ内から登り着いた山に分布する南から宮崎県側を向いた台場群（17～25）こそ柚ケ内村ノ山頂ニ至リ第一ノ守線ヲ設ケたと記述されているものであろう。

## 幕末前後の類例について

大原越へに存在する星形台場の類からまず連想するのは函館五稜郭である。これはオランダの築城書を基に伊予大洲出身の武田斐三郎が設計し、1857年から1866年にかけて築かれた稜堡式の城である。ヨーロッパにおける築城術は大砲による破壊力の増大に伴い石造りの城郭として発達してきた。17世紀に至って攻城軍に対する防御側の死角をなくす稜堡式城郭となった。19世紀までに造られた稜堡式城郭は主にヨーロッパをはじめ北米大陸他世界中に400基以上が存在する。北海道には五稜郭に先立つ1855年に戸切地陣屋が築かれている。規模は五稜郭よりも小さく、四隅が突出した四角形の一角に小型の菱形が重複したような平面形をもつ。函館五稜郭に類似した形態のものは長野県龍岡城である。1863年に陣屋として造られた小型の五稜郭で一部未完成である。この他、海岸防備のために全国的に設置された砲台も稜堡式城郭の一種であるが、これらは形態的にも設置の状況も異なるのでここではそれらの存在を指摘するに留める。

上記の三例は幕末期に属すが、直後の戊辰戦争でも北海道内に権現台場・四稜郭・川汲台場（南茅部町一標高485mの台場山頂上にある長さ約9m×幅約7mの不等辺五角形の土塁）・七飯台場（七飯町一標高349mの山頂に31m×17mの不等辺多角形の台場がある。平面形は蝶が羽を休めているような形らしい。）が造られている。これらは旧幕府軍のもので、オランダ築城書の翻訳「築城典刑」を著したことのある大鳥圭介等が築造に関わっているが、大鳥の記述した戊辰戦争の記録「南柯紀行」によれば「ブリユネは砲兵の頭取にて三年前より我等横濱にて陸軍の傳習を受けし時、度學、築城學を學びし教師なり」、「『ブリユネ』は余が横濱兵學傳習已來の教師にして年齢三十以内なれども、性質伶俐にして度學、築城學に長ぜり」とあるように、戊辰戦争時の台場築造にはフランス軍事顧問団のブリユネが関与していた。彼の築城学は当然西洋式であり、西洋式の中での細かな相違は現時点では分からないがフランス

流の稜堡式城郭に関するものであろう。旧幕府軍は書物での知識に加え、ブリュネから実地の築城技術を学んで小型堡壘を築造したのである。

残念ながら略図以外にこれらの測量図を探ることができなかったが、西南戦争時に大原越へに政府軍が造った星形台場の類は幕末の函館五稜郭よりも戊辰戦争時の小型堡壘に似ている。戊辰戦争に旧幕府軍として参加し、西南戦争に政府軍として従軍した人がいるのではないか。幸い佐藤喜一氏（阿南市在住）から該当者5人の存在と彼等の履歴について御教示いただいた。そのうち大原越へに最も関係深いと考えられるのは筒井義信である。筒井義信（1846～1900）は幕臣であり、幕府時代は小筒組差図役下役並を勤めていた。戊辰戦争の際は21歳か22歳であった。大鳥圭介等と東京を脱出して転戦しながら北海道に至り、函館五稜郭で降伏した。樋口雄彦「箱館戦争降伏人と静岡藩」『国立歴史民俗博物館研究報告』第109集2004 によれば、箱館政権での役職は工兵隊頭取改役であり、降伏後は沼津に移住し静岡藩の浜松勤番組之頭支配二等勤番組となった。明治三年、箱館政権で工兵隊工兵頭であった小菅智淵とともに静岡藩から和歌山藩に工兵教授のための御貸人として勝海舟の仲介で派遣された。当時和歌山藩ではプロシア式の軍隊を導入中で、そのドライゼ銃で統一した部隊はその後西南戦争にも出動を要請されている（竹内力雄「宇目町の西南戦争―駒木根隊長とツンナール銃―渡辺用馬『懐古追録』より」『西南戦争之記録』第1号2002）。二個大隊約1,500人が従軍したが、半分（遊撃歩兵第五大隊）は大分県内に派遣され熊本鎮台に属して佐伯市宇目の城之越・黒土峠等で戦った。

和歌山藩派遣がいつまで続いたのか不明だが、筒井は西南戦争当時、熊本鎮台工兵隊隊長であった。明治15年発行「熊本鎮臺戦闘日記」熊本鎮臺諸隊人名表明治十年十月調 によると熊本鎮台の工兵隊は工兵第六小隊といい構成人員は将校7人（大尉筒井義信・中尉渡邊英興・同岡井高尚・軍医副杉山由哲・軍吏補千賀春光・少尉試補和多田直正・馬医試補中村彌）・下士23人・卒158人である。熊本鎮台は戦争前半2月から4月14日までは熊本城で籠城し、その後薩軍熊本・宮崎県境付近の高千穂で対戦していたが5月中旬以降8月まで大分県内にいて警備・戦闘を担当しており、筒井も旧知の和歌山出身者達とともに大分県内で戦ったことになる。熊本籠城中、工兵隊が防御・攻撃のための諸施設を築造し続けたことが「熊本鎮臺戦闘日記」に記録されている。例えば3月21日の記述には

此日工兵隊交通路ヲ段山ニ穿チ千葉城ニ胸壁砲臺交通路等ヲ設ケ及ヒ尋常堡藍ヲ屯營近傍ニ築ク  
とある。ところが、注目すべき記述が3月29日・30日・31日に見られる。3月29日には、

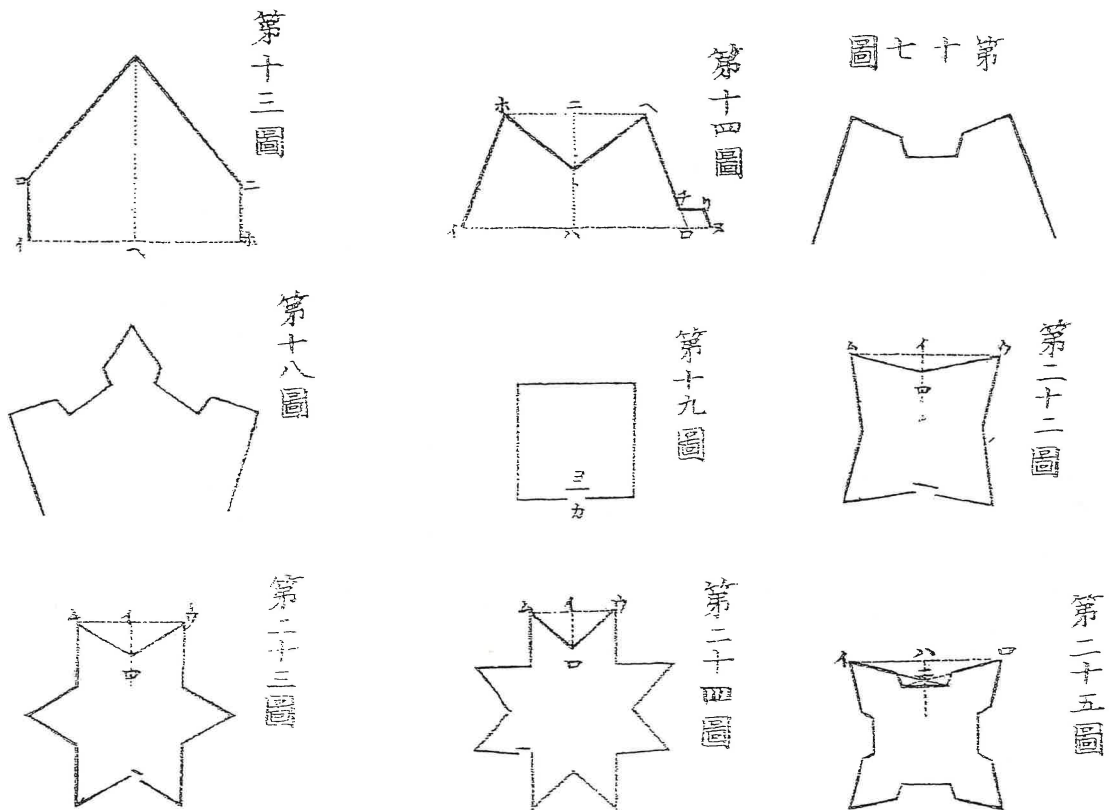
此日工兵隊劔頭堡並ニ凸角堡ヲ柳川町ニ砲臺ヲ本町ニ凸角堡ヲ裏京町及ヒ木裏町ニ築キ尋常堡藍ヲ屯營近傍ニ造設ス  
とあり、30日には、

此日工兵隊凸角堡ヲ柳川本町並ニ裏京町ニ築キ尋常堡藍ヲ屯營近傍ニ於テ造リ及ヒ鹿柴ヲ京町ニ樹ユ  
31日には、

此日工兵隊凸角堡ヲ柳川本町並ニ裏京町ニ築キ尋常堡藍ヲ屯營近傍ニ造リ及ヒ鹿柴ヲ京町口ニ樹ユ而シテ別ニ横牆ヲ柳川町ニ築キ且尋常束柴ヲ下馬橋ヨリ屯營ニ運送シ下馬橋ノ胸壁ヲ修理ス  
とある。劔頭堡・凸角堡とはどのようなものか。

幕末期にはオランダの築城書の翻訳・印刷がいくつか行われた。大鳥圭介による「築城典刑」（陸軍所 元治元年他）は主な訳本である。竹内力雄氏の御好意により複写を入手した。西南戦争時のある種の台場を理解するうえで参考になる。それによれば、戦場における築城には「須臾ノ間ニ之ヲ造リ暫ク割抛ス可キ」野堡と「要地守衛ノ建築ニメ永ク之ヲ保チ一國ノ藩鎮ト為ル可キ」築郭とがある。同じ原書を福沢諭吉も翻訳している。活字化されたのは明治になってからだ。1860年代に緒方洪庵の塾で訳したものである。その「ペル築城書」『福澤諭吉全集』第7巻岩波書店1959によれば、築城には郊堡と壘城とがあり、「郊堡は急率の際に造營して一時の用に供する所以のものなり。壘城は無事の日よく要害の地を撰び丁寧ニ築成して永久に堪ることを得せしむる所以のものなり」という。これらによれば幕末に造られた五稜郭は築郭（福沢訳本では壘城一以下、福沢訳を括弧内に示す）であり、戊辰戦争や西南戦争で造られた多稜堡壘は野堡（郊堡）ということになる。以下、訳書によって後者についてみてゆく。内折する胸牆を凹角、外折するものを凸角といい、凸角の角度は60度より小さくしてはいけない。背後から攻撃される恐れのある場合は閉じた形、閉鎖野堡（閉堡）となる。ない場合は啓開野堡（開堡）である。防禦上野堡一基で足りるものを独立野堡といい、「堡壘ヲ處々ニ建作シ互ニ援助ヲ為シ烈火ヲ發シテ之ヲ固守スル」ものを集列野堡という。大原越へが該当しよう。閉堡の外辺を凹角をなすように折り曲げものを星堡（星様頭）と呼ぶ。四稜星堡の場合、突出部同士

を結んだ頂線の1/7の長さを内側に凹ませ、六稜星堡の場合は2/7、八稜星堡の場合は3/7である。四稜・六稜・八稜の挿図がある(第27図)。「熊本鎮第戦闘日記」にある凸角堡とは凸角の開堡のことであり、大原越への台場21・23こそその実物であろう。剣頭堡は大原越へにはない。大鳥の挿図第17図は角堡、第18図は冠堡というが、第18図の中心にあるものを剣頭堡と呼んだのかも知れない。18号台場は一見、東西対称のようであるが、よくみると東側突出部は四角形であり冠堡を採り入れている。24号台場の縁辺部は四稜星堡の南側一辺に突出部を加え、反対側を出入り口部として突出させたものようである。大原越への多稜堡壘群は通常多数の台場とは形態が異なり、西洋式の築城術を念頭に築いたものであり、全体の中では特異な存在である。なお、筒井義信は最終的には陸軍工兵中佐に昇進している(田村貞雄編「徳川慶喜と幕臣たち」静岡新聞社1998)。



第27図 大鳥圭介「築城典刑」挿図

これまで大分県内において西南戦争時の台場を約450基確認しているが、西洋式の多稜堡壘に関する発見は初めてであり、存在も予測してなかった。今回報告した大原越へ多稜堡壘群は今後、軍事技術史や幕末維新史の内容を充実させると思う。戊辰戦争の戦跡において分布調査と測量調査を行えば、相互に比較することができるだろう。

## 報告書抄録

ふりがな	おおいたけんないせきはつくつちようさがいほう	シリーズ番号	第9号
書名	大分県内遺跡発掘調査概報	編著者	高橋信武・小柳和宏・綿貫俊一
副書名		編集機関	大分県教育庁埋蔵文化財センター
巻次	9	所在地	大分市中判田1977
シリーズ名		発行年月日	平成18(2006)年3月31日

ふりがな	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおはらご 大原越へ だいばぐん 台場群	大分県佐伯 市宇目大字 大平			32°48'48"	131°44'6"	2005.11.8 } 2005.12.24	10,000m <sup>2</sup>	分布調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大原越へ台場群	戦跡	明治時代	台場		政府軍の多稜堡壘群

---

---

## 大分県内遺跡発掘調査概報9

発行年月日 平成18(2006)年3月31日  
編 集 大分県教育庁埋蔵文化財センター  
所 在 地 〒870-0011  
大分市大字中判田字ビワノ門1977番地  
TEL(097)597-5675  
印 刷 日新印刷株式会社  
〒874-0932  
別府市野口中町6-20  
TEL(0977)23-3288

---

---

